聖徒の道

末日聖徒イエス・キリスト教会

聖徒の道　目次

一九五八年　四月号

「大管長メッセージ」
地上の小さな天国・・デビド・オ・マッケイ大管長　一頁
大管長の信条　ジョージ・アルバート・スミス・　二
教義を受入れない者はどんな組織にも不必要
・・・ジョセフ・フイールディングスミス長老・　三
「伝道部長メッセージ」
意義深い今年の復活祭
ボール・C・アンドラス伝道部長　四
豊かなる生活　・・・ハロルド・ビー・リー長老・　七
「GEMS OF THOUGHT」
最も貴き書なるモルモン経
・・・・・・・ジョセフ・エフ・メリル長老・・　八
按手による祝福・・・・マシユー・カウリー長老・　八
発掘された死海の書(一)
・・・・・・・シドニー・B・スペリー博士・・　九
「質問欄」
排他的なイスラエルが如何にして祝福されるか・・　十一
アンドラス伝道部長からマッケイ大管長へ招請状・・・　十四
「信仰と証詞」
二つの恵み・・・・・横浜　渡部　正雄・・・・・　十八
証詞・・・・・・・西宮　安芸　宏・・・・・　十八
「系図のページ」
ステーキ部系図組織・・・・・・渡部正雄会長・　二十
神殿の門から・・・・・・・・・・・・・・・・　二三
系図会発会に寄せて・・・岡町　阪本幾代・・・　二三
「ニュース欄」
伝道本部より・・宣教師到着　移動　任命
神権授与　バプテスマ・・　二四
室蘭に系図委員会・・・・・・・・・・・・・・　二四
安芸兄弟、中島姉妹の婚約発表・・・・・・・・　二五
新組織下の横浜支部・・・・・・・・・・・・・　二五
役員一部新任さる・・・・・・・・・・・・・・　二六
三ケ月を振り返る・・・・・・・・・・・・・・　二六
ロー長老を送る・・・・・・・・・・・・・・・　二六
礼拝堂の建築を計画・・・・・・・・・・・・・　二六
西の宮支部大会・・・・・・・・・・・・・・・　二七
（表紙の説明）第六代大管長ジョセフ・F・スミス・　二八
「詩　藻」・・・・・・・・・・・・・・・・・・
文通いたしましょう・・・・・・・・・・・・・　三十
モルモン経物語(六)
・・・エマ・マー・ビータソン・・・・・・・・・　三一
編集言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　三三

大管長メッセージ

地上の小さな天国

デビド・オ・マッケイ大管長

一致と調和が欠けているくらい家庭でいやなものはほかにちよつと例がない。一方に於て、一致と互いの助け合いと愛とがある家庭は地上の小さな天国であることを私は知つている。私は、私の青春時代を過した家庭の少年として父と母との間にかつて一度たりとも不一致のあつたためしを見たことがない。また好意と互いの理解は今まで兄弟姉妹の幸福な群を結び合せている結びのつなである。私はこれらの記憶を非常に感謝して謙遜な心で大切に胸に抱いている。一致と調和と好意とは、どの家庭でもみな養い育てて大切にしなくてはならない美徳である。

結婚とは人のよく認めている目的、すなわちもともと子供を育てるという目的で結ぶ神聖な関係である。

結婚の誓約という高貴な考えにとつて等しく大切なのは、親であることの責任に就いてわが教会の教える教えである。親であることは神聖な責任であると思わなくてはならない。人の心の底には、親であることをおろそかにする行為に対して反抗する何ものかがある。

幼年期と青春期とを保護する責任を避ける両親は必ずその応報を受ける。

○・・・親として子供に示す模範は？

私は、あなたたち両親が立つていい自分の子供たちに福音を教えておいでになると思つている。しかし、私はこの点に就いてまだ大いに改良する機会があると確信している。私は今あなたたちが、自分の子供たちに福音の教義を落ち着いて教えるきまつた時間のことを考えているのではなくて、あなたたち両親が自分の心にとつて大切な信仰に就いて子供たちに与える模範のことを考えているのである。あなたたちが親として行つて見せる模範は、口で教えるよりもずつとよく福音の原則を教えるにちがいない。教会の指導者は将来あなたたちの家庭から出てくるのである。

父親は役に立つ拘束力をふるつても差支えないしまたそうすべきであるが、その場合母親の優しさと愛とは子供たちをして母親を利用するようにならせるかも知れない。しかしながらこの点に就いて、父親たる者はみな自分自身昔はいたずら小僧であつたことを忘れずに、思いやりのある取扱いを自分の男の子たちにすべきである。

○・・・愛がなければ家庭ではない

どの家庭もみな肉体と精神の両方を有つている。あなたは近代美術の粋をこらした或いは金にあかせた美しい家を有つているかも知れない。あなたは目を喜ばせるにちがいないあらゆる外観を有つているかも知れないが、それでも家庭を有つているのではない。愛がなければ家庭ではない。それはあばら屋であり、丸太小屋であり、テントであり、土人の小屋であるかも知れない。しかし、あなたが心の中に正しい精神すなわちキリストの真の愛と、お互いの愛すなわち子供たちに対する父母の愛と両親に対する子供たちの愛と夫婦相互の愛とをもつているならば、わが教会の忠実な会員たちが確立しようと努めている本当の家庭をもつているのである。家庭を造る技術とは、子供たちの生活の中に彼らをして本能的に美しいもの、真正なもの、徳の高いものを愛し、これと同様に本能的にみにくいもの、偽れるもの、卑しいものにうしろを見せる心の気高さを教え込むということである。

もしもあなたが私にどこで私が神の存在を信ずる確固不動の信仰

を得たかと問うならば、私は答えたい、私はその信仰を父と母とがいつも必ず朝と夜とに子供らをまわりに呼びよせて一家と人類の上に神の祝福を祈った私の子供時代に家庭の中で得たと。子供たちの心に不滅の感銘を残した一家のあるじである善い父親の声の中には誠がこもっていた。母親の祈りも又同じ様に強い印象を与えた。

○・・・最も貴重なものは家庭である

人の所有する最も貴重なものはその家族である。

家族のきずなは死の束縛を超越することができて永遠の果しない時を通じてつづくこともできるという神の断言の中に、私はこの上もない慰めと霊感とを見出す。

愛する者たちの結婚が神権者の結び固めを帯びている時には、その結婚は愛のように永遠であり霊のように限りがない。このような結婚は不死不滅 人類の永遠！ 進歩の教義に基づいている。 これはあなたが永遠の提携をしようとする時、あなたが受けつぐべきものである、よって私はあなたがこれを実行して、このように貴重な理想の真の喜びと幸福とを見出すように祈る次第である。

教義を受入れない者は どんな組織にも不必要

十二使徒会員 ジョセフ・フィールディング・スミス長老

今日の時代に於てあまりにも多くの考え、思想、哲学がはびこっているので私は若い人々のみならず、すべての教会会員の信仰に就て重大な関心を持つのであります。私は長い間、霊的守護、我々がその組織内で、若い人達を教える時、偽りの教義と世の教えから守る事の必要さを痛感して来ました。

約三日前に私は約半世紀も教師をつとめて来て現在も教師であるところの極く親しい友人である一人の兄弟から手紙を受取りました。彼はシオンのステーキ部の高等評議員会の席を占めて居り、私は彼を非常に信頼して居ります。彼はその手紙の中で、若い人々の為に、実際には教会のすべての会員の為、その教えに適当な保護と導きが必要であることを要請しました。私は彼の手紙から一節を写して私にそれを利用させて下さいと頼みました。彼は許してくれましたので今私はそれを貴方がたに読んで聞かせましょう。

「私共の社会に於て、また私は他の場所に於ても同様に見られるのではないかと疑いますが、私共の定員会またはその他の組織内で偽りの教義及び気違いじみた想像を教えている人があります。

彼等は殆ど例外なく常軌を逸した兄弟であります。彼等は立派な訓育された心の持主であり、或場合には明朗な感化力のある性格の持主でありますが従順からもたらされる真理の御霊に欠けています。貴方は貴方の持っていないものを与える事は出来ません。私のへりくだった意見ではただ信ずる者のみ、そしてその教えをその行動に証明出来る人のみ、私度の定員会及び其他の組織で教えるべきであります。」

彼の指摘した処を私は全面的に裏書きします。そして私は此の考えを特に私共の監督たち、ステーキ部長たち、日曜学校及びMIAの会長たち、また教会の神権定員会並にその他の組織に責任を持つ人達に申上げたく、その教師たちを選ぶ時に彼等が英智を使い、主の御霊の導きを求めるかどうかを検討し、私共の教会の日曜学校、MIA及び神権定員会に於ては立派な秀れた性格の持主でも信仰なくして召される事のないように気をつけねばなりません。私たちは福音の原則に訓育され真理に信仰と証詞を持つ人々を必要としています。

世の中の思想に応じて多くの教育を受けただけでは教会の中で如何なる組織または神権定員会にせよ教師に召されるに充分な理由と

はなりませぬ。

けれども今若し彼が学者的才能と教育を受け且つそれにそうて福音の原則に就き、主イエス・キリストの宣教に就きまた予言者ジョセフ・スミスに就ての信仰を持つているならすべてはよいのであります。けれども若し彼が、すべての哲学及び思想に充たされていようとも教会の標準聖典中の教義を受入れることが出来ないなら、私たちは私たちの補助組織にしろ、神権会にしろ、神学専修学校または神学院にしろ、宗教の原則を教え、若い人たちの心に信仰をうえつける処で彼を必要としないでしょう。主はかつて言われました。

「汝ら、人の値は神の前に大いなることを憶えよ。見よ、そは汝らの贖い主なる主は肉体にて死を受けたればなり。これを以て彼はすべての人々の悔い改めて彼に来らんために、すべての人々の苦を受けたり。彼はすべての人々悔い改むるならば彼に連れ行かんために、死人の中より再びよみがえれり。而して悔い改むる人を見て彼の悦びは如何に大いなるか。これを以て、汝らは今の世の人々に悔改めを叫ばんために召さるるなり。而して汝らもし生涯今の世の人々に向いて悔改めを叫ぶことに力を尽し、唯一人の人たりともわれに導かば、わが御父の国に於て彼と共に汝らの悦び如何ばかりぞや」（教義と聖約十八章十節―十五節）

教会の初期に於ては人々は教会外から入つて来て、福音の証詞を受けました。けれども彼等は世の中の伝統と宗派に訓育され、彼等自身にそのような宗教的概念を身につけて入つて来ました。主は彼等を正して言いました。「われら正に人の相対して互いに論ずる如くに論ぜん。さて、人論ずる時は人によりて悟る。人として論ずればなり。今主なるわれもまた汝らの悟らんために正にかくの如く汝らと論ずべし。この故に、主なるわれ汝らにこれを問う。そもそも、汝らは何のために聖職の按手　任命を受けたるか。真理を教えんために遣わされたる「慰め主」、すなわち「みたま」によりてわが福音を宣べんためなり。それより、汝らは如何なるものとも知り得ざる諸々の霊を受入れ、これを神より来れるものとせり。これにて、汝ら義しとせらるるや。見よ、汝ら自らこの問に答えよ。さりながら、われは汝らを憐まんと欲す。すなわち、汝らの中弱き者もこの後強き者とせられん。われ誠に汝らに告ぐ、およそわれによりて聖職の按手任命を受け、「慰め主」すなわち真理の「みたま」によりて真理の言を説くために遣わさるる者は、果して真理の「みたま」によりて教えを説くか、はたまた他の道によりてこれを説くか。もし何らか他の道によるとせば、これ神によるにあらず。重ねて言う。

大管長の信条

私は友なき人の友となり、貧しき者のとぼしきをうるおすに悦びを見出そう。　私は苦しみにあえぐ病人を見舞い、癒されるという信仰を得たいとの願望をその心に吹き込もう。　私は全人類が真理を理解しその祝福に与る様、真理を教えよう。

ジョージ・アルバート・スミス

私は身を誤つて私は身を探し出いる人を探し出し、その人達が義しい幸福な生活に立ち帰る様、尽力しよう。

私は多くの人々と共に住み、その人達の人生が幸福なものとなるよう、その問題の解決に助力をしよう。　私は殊更、人前で高い地位について公言する事をさけ、軽卒な友のへつらいを思いとどまらせよう。

私はたとえ私を傷つけ害した事のある人であつても、知りつゝ何人の気持をも害なわぬよう心掛け、万人に善をなし、万人を友とするよう努めよう。　私はやゝもすれば利己的になり又しつとし易い性癖を克服し天の御父のすべての子供達の成功を悦ぼう。　私は何人の敵にもならぬように心掛けよう。　人類の救主が我々を完全に進歩向上せしめ且つ我々を現世及び来世に於て幸福たらしめる唯一の計画をこの世の人々に与え給うた事を知つているので私は真理を広める事は単につとめであると考えるのみならず、恵まれた特権であると感ずる。

真理の言を受けし者は真理の「みたま」によりてこれを受けしや、はたまた何らか他の道によりてこれを受けしや。もし何らか他の道によりてこれを受けしや。もし何らか他の道によるとせば、これ神によるにあらず。この故に真理の「みたま」によりて言を受けたる者は、また真理の「みたま」によりて教えらるるままにこれを受くることを汝ら知りて覚り得ざるは何ぞ。この故に、教ゆる者も受くる者も互いに相悟り、両者共に徳に導かれて共に悦ぶなり。人を徳に導かざるものは、神によるにあらず暗黒なり。（教義と聖約五十章十一節―二十三節）

誰が教師であるかに拘わらず、若し彼が偽りを教えるならば、また主に咎められた事を教えるならば、また教会に与えられた啓示に書かれてあることに反する事を教えるならばその人は教えるべきでありません。教義と聖約の四十二章に主は、御霊を持たない者は教えるべきでないと宣言して居られます。私はステーキ部及びワード部内の貴方たち兄弟にその心に信仰を持ち、イエス・キリストの福音の真理を愛する人々を見出し、単にその性格や世の博学により選ぶことのないように心がけるように呼びかけます。彼等がその心に神聖な真理に対する愛を持つているかどうかをたしかめなさい。

若し人が私達の標準聖典、聖書、モルモン経、教義と聖約、高価なる真珠の中の啓示を受入れる事が出来ないなら、また若し主の言葉によつて私共にもたらされそれ等聖典の中に記録された事を無条件に受入れずその心に保留をするなら、彼は末日聖徒イエス・キリスト教会の如何なる組織またクラスに於ても教えるべきではありません。

主が私達一人々々すべてを義に導き聖文を学ぶ事により彼の御意志を知り得るよう援けて下さるように私はイエス・キリストの名によりへり下つてお祈り致します。

＊＊＊　＊＊＊　＊＊＊　＊＊＊　＊＊＊

伝道部長メッセージ

意義深い今年の復活祭

四月六日を改めて考えよう

伝道部長　ポール・シー・アンドラス

四月六日はこれまでいつも末日聖徒にとつて意義の深い日でありましたが、本年の四月六日はいつもよりひときわ意義の深い日になつております。

主は千八百三十年四月の六日に、この地上に主の真の教会を再び設立したもうたので、その時以来末日聖徒は四月の六日を尊敬の中に保つてきました。

千八百三十年の四月に予言者ジョセフ・スミスにたまわつた啓示を通して、私たちは、イエス・キリストは四月の六日にお生れになつたのであつて、普通想像されているように十二月の廿五日ではないということを知つています。（教義と聖約廿章一節）　末日聖徒イエス・キリスト教会の総大会の集会は千八百三十年このかたずつと毎年四月の六日に開催されてきて、今年もまた四月の六日に開かれるにちがいありません。上に述べたわけで、四月の六日は特に意義深い日でありますが、今年は復活祭も四月の六日に当るので全世界の末日聖徒にとつてこの日はいつもよりもひときわ意義が深くなります。

・・・二千人の日本の聖徒の祝福は・・・

今年約百五十万に及ぶ神の真の教会の会員は、これまで教えられ

ている救いの計画の知識と神の教会の中で教えられている「生きる道」とに対して心に抱く喜びと感謝とを以て、四月の六日である復活祭を祝うにちがいありません。これらの百五十万に及ぶ会員は、地球上に住む残りの二十九億九千九百五十万の人々よりも遥かに超えた多くの祝福をこれまで受けております。今日世界中にはキリスト教徒であると公言する約十億の人々がありますが、末日聖徒イエス・キリスト教会に属する百五十万の会員は、これらの人々よりもはるかに偉大な知識を受けておりますから従つてキリスト教徒であると言う残りの九億九千八百五十万人よりもはるかに大きな祝福を受けております。日本には九千万の人口がありますが、その中で五十万人だけがキリスト教徒であります。また日本には僅かに約二千人のモルモン教会員がありますが、これらの二千人に及ぶ会員は一層偉大な知識を受けておりますから、従つて残りの四十九万八千人のキリスト教徒と日本に住む八千九百九十九万八千人の日本人よりもはるか　に大きな祝福を受けております。

・・・墓から復活したイエスの肉体は・・・

特殊な例として、日本及び世界中に居る末日聖徒はほかの人々がもつているよりは復活に就いて一層偉大な知識をもつて居ります。末日聖徒は、イエス・キリストが世の人の罪のために身代りの贖罪をするぎせいとなつてその生命を自ら進んで捨てたもうたこと、およびイエス・キリストの霊は実際にその肉体を離れてパラダイスの中に居る不従順な霊たちに救いの計画を宣べ伝えるために行きたもうたということを知つています。（ペテロ前書三章十八節―二十節）　イエス・キリストの霊がその肉体の中になかつた間中、イエス・キリストの肉体は実際に死んで居りました。本当にローマ人の兵卒たちは、彼らがイエスの肉体を十字架からとり下す前にイエスが死んでいたことを確めました。（ヨハネ伝十九章卅二、卅三節）

イエス・キリストは、死んでから三日目にその死んだ肉体の横わつていた墓へ帰りました。父なる神から前以て与えられていた能力を用いて、イエスは再び死んだ肉体をとり、それを再びよみがえらせたまいました。しかし、死と復活とを通過したことによつてイエスの肉体は今や不死不滅にして完全なものになつてしまつていました。墓を封ずるために用いてあつた大きな石は、神の力によつて転がし去られ、イエスは地球の歴史上最初に復活した人として、死に打ち勝つて進み出でたまいました。

・・・第一の復活は今も有効である・・・

イエス・キリストは復活をしてから四十日の間にその弟子たちを訪れたまい、またこの間中、昇天する前に多くの人々にお現われになりました。（ヨハネ伝廿章十五節―十九節、コリント前書十五章三節―八節）　エルサレムに在つたイエスの弟子たちに別れてから、復活の主は西半球に居たニーフアイ人を訪れたまいました。（ニーフアイ第三書第十一章―廿六章）末日聖徒は、神の能力とイエス・キリストの身代りの贖罪とによつて、全人類は必ず復活をしまた自由の賜として不死不滅の体を必ず受けることを知つています。聖典の中には二つの総復活のことが言つてありますが、それは㈠第一の復活もしくは義しき者の復活であり、また㈡最後の復活もしくは義しからざる者の復活であります。第一の復活もしくは義しき者の復活はイエス・キリストの復活を以て始まつて居ります。以前にこの地球上に住んでいて、イエスの復活なさる前に死んだ義しい人たちの多くの者はイエスが復活をなさつた直ぐ後に復活しました。（マタイ伝廿七章五十二節―五十三節）　義しき者の復活はその時以来ずつと有効で　　義しい人々の中の多くの者はすでに復活しております。例えば、紀元第五世紀に死んだニーフアイ人予言者中の最後の予言者モロナイは、千八百二十三年にジョセフ・スミスに復活した者として現われました。イエス・キリストの再降臨の時には多数の義しい人々が復活するにちがいありません。次の一節はタルツ

ヂ博士著「信仰箇条の研究（信証講義）」から引用したものであります。

・・・義人の復活に伴う栄光・・・

「末日の啓示の媒ちを通して主はかつて仰せになつた「見よ、われ来らん。而して彼ら、われ能力と大いなる栄光の衣を着けて天の雲に乗り、すべての聖き天使らと共に来るを見ん。而して、およそわれを油断なく待たざる者は断ち切られん。されど主の腕の下らんとする前に、まず一人の天使ラッパを鳴り響かせん。然る時は、眠り居たりし聖徒ら雲の中にてわれと遇わんために出で来らん」と。

主の栄光ある再臨に伴う多くのしるしと驚異の中、次のような一部分の記録がある。すなわち

「・・・主の面現わるべし。而して生きて地上にある聖徒らは、その身変りて主に会うために空中に挙げられん。また墓に眠りてありし者たちはその墓開かるる故に出で来り、天の柱の唯中にて主と遇わんために彼らもまた挙げられん。すなわち彼らはキリストのもの、最初の実なり。そはキリストと共に最初に天より下る者、また地の上墓の中などに在りて彼を迎えんがために最初に挙げらるる者たちなり」と。

このような栄光が、義人の復活に伴う栄光の幾つかである。そして、この義人の一団の中には、彼らに知らされた通り神の律法に従つて忠実な生活をした者たちが入つている。また、罪を知らぬ内に死んだ子供たち、光明を探りながら比較的暗黒の中に生活した異教徒中の義しい者たち、および無智の有様で死んだ者たちさえこの中に入つている。この教義は近代の啓示によつて明瞭である。すなわち「それよりして異教　を奉ずるもろもろの民は贖わるべし。およそ律法を知らざる者は第一回の復活に与るべく・・・・」と。そこで福千年は義人が死の力から栄光ある解放をされることによつて始まるはずであり、この贖われた者の一団に就いて次のように誌されている。「この第一の復活に与る者は福なり。これ聖き者なり。このともがらの上に第二の死は権を執ること能わず。彼らは神とキリストの祭司となり、キリストと共に千年の間王たるべし」と。最後の復活。「そのほかの死人は千年終るまでよみがえらざるなり」と。黙示者ヨハネは第一の復活に与る義人の栄光ある祝福を誌した後証しをした。この祝福を受ける価値のない人々は、新生した世界がまさに御父に捧げられようとするときに、身も霊も神の前から断り切られる審判を受けるために召される。第一の復活に与ることを保証された人々と最後の審判を待つているのがその運命である人々との対照は非常に大きなものであつて、如何なる場合にも聖典はそれを軽減してはいない。われわれは死のために奪い去られた者のことを泣き悲しむこと「ことに栄光ある復活の望みを有たざる者のためにいよいよ嘆き悲しめ」と言われている。現今イエス・キリストの御声は厳かに宣告して「汝ら聞け。見よ、主の大いなる日は近づけり。主の天より声を発したもうべき日は来るなり。もろもろの天は震え、神のラッパは高く鳴り響きて眠れる国民に告げん。汝ら聖徒よ、よみがえりて生きよ。汝ら罪人よ、われ再び呼ぶ時まで眠りつずけよ、と」と聞えるのである。

・・・復活は万人ことごとく受ける・・・

また最後の場面の示現はヨハネが次のように描写している。「われまた死にし者の大と小との別ちなくみな神の前に立つを見たり。そこに書ありて開く。ほかにまた一つの書ありて開くこれ生命の書なり。死にし者はみな書に録せる所の事によりその行いに従いて審判を受くるなり」と。聖典が決定的に証明しているように復活は万人に起るはずである。死者は各々第一の段階か最後の段階に準備されている通り、順序に従つてよみがえらせられることは本当である。しかし一度肉体に宿つた者は一人のこらず彼の体を再びとり、この霊と体との結合体で審判を受けるのである。モルモン経は文字通りの万人の復活を明確に描写している。すなわち「世には肉体の死と名づける

死があるが、キリストの死によつて肉体の死の繩目が解かれあらゆる人がこの肉体の死から復活することができる。ここに於て霊と体とは再び合して完全な形となり、手足も骨の関節も私たちが今持つている本来の形に返り、私たちが今持つているような知識を保ち、明らかに自分が持つている一切の罪を思いめぐらしてそのまま神の御前に引き出されるのである。この復活はあらゆる人が全部受けるのであつて、老若男女の区別なく悪人と善人とを問わず奴れいと自由人とのへだてなく、一すじの髪の毛さえも失われずに、総身の何れの部分もあたかも今の世にあるようになり、完全の形にかえるのである。それから後で、その行いの善し悪しに応じて裁判を受けるため、一つの永遠の神会を成すお方、すなわち御子なるキリストと父なる神と聖霊との法廷に召される。今私は肉体の死と肉体の復活とについてあなたたちに話したが　この死なくてはならない肉体は不死不滅の体となつて死からよみがえる。すなわち、第一の死から復活して後に永遠の生命を受けるのである。それであるから、人はもう死ぬはずがない。人の霊は体と合していつまでも再び離れない。そしてこのように相合したものはみな霊性体となつて不滅となり、再び朽ちることがないのである」。

また次のことをよく考えたまえ。

すなわち「キリストの死は復活を来し、復活は人を永遠の眠りから救う。永遠の眠りはラッパが鳴り響く時に神の力によつて万人がこれから呼び覚される。そして大小の区別なくあらゆる人々が、みなこの永遠の眠りである肉体の死の繩目から救われ放されるのでここによみがえつて神の法廷に立つ。その時みなは聖者の裁判を各々受けて、汚れた者は汚れた有様に、義しい者は義しい有様に、幸福なして主に認められているか否かを知るために絶えず祈り求める事によつて悦び進んで主に近ずきつゝある人はこの世に於て全く豊かなる生活を営んでいる人であり、また天の御父と共に永遠に生きるところである日の栄えの世界で生活する準備をしている人である。私はあなた方の中で最も至らない一人として私のささやかな証を立てたいと思う。私はリチャード副管長がこの午後に、本当にすばらしくお話しになつたような愛に全く心が満されて居り給うお方に私達を近ずかしめるある力が実在している事をよく体得し知つている。数年前のある晩、私はベットの上で私が召された高い地位に私がふさわしくあり得る前に、私はすべての人類を愛しまた許さねばならないという事をまざまざと悟り知つた。そしてその際に私は安らぎと導きと慰めとを得ると共に霊感によつて来るべき事柄を知らされ、また心に感得している事は神より与えられたものであるとの感銘をうけた。私はこれらの事は真実であり、また神は生き給い、イエスはキリストであり、また主に近く侍る事により我々、一人一人も豊かなる生活を営む事ができる事を知つている。私はその証をイエス・キリストの御名により証しする。

「豊かなる生活」

十二使徒評議員会会員

老長　ロバート・ビー・リー

豊かなる生活への第一歩は天来の光明を受け、かつイエスはまことに生き給う御方であるとの証をうけ、そしてイエスが我々に話しかけ給う事ができるという証に与り得るような生活を営む事である。かような証をもつようになつた人は更に心の奥底から使徒パウロが云つたように「主よ、我に何をばなさしめんとし給うや」・・・と云うであろう。

もし我々のあらゆる利己的な動機、更に我々のあらゆる個人的な望みや便宜が主のみこころを知ろうとする願望に従属させられるようになるとき、その人は天上の示現に接する資格に与る事ができる。もしあなた方が忠実で、神の力の源に義しく訴えるならばあなた方もまた危急存亡の時やまさかの時にあなた方がその子供でありまた仕えるところの神の天使があなた方の傍に立つであろう。神が生き給い、イエスがキリストであるとの証にふさわしい生活を営み、また自身の歩む道が果

者は幸福な有様に、また不幸な者は不幸な有様にとどまる」と。

まことに、末日聖徒として私たちは復活と救いの計画とに就いて偉大な知識を受けております。私たちが本年四月の六日を迎えるに際し、この日は救い主の第千九百五十八回目の誕生日に当り、また末日聖徒イエス・キリスト教会の第百廿八回創立記念日に当り、なおこの日に、現在主の教会を卒いて居られ予言者聖見者啓示を受けるものであられるデビド・オ・マッケイ大管長管理の下にソルトレーク市の世界に名高いタバナクルで総大会の集会が開催されていることを思い起すのはまことに似つかわしいことであります。これに加えて、私たちは再び復活祭の意義をよく考えようではありませんか。また私たちが義しき者の復活によみがえるねうちがあるように生活するため、新しく決意をしようではありません

GEMS OF THOUGHT

最も貴き書なるモルモン経

故十二使徒　ジョセフ・エフ・メリル長老

もしモルモン教が真実でないならば予言者ジョセフ・スミスは今日迄の宗教界にあつて最大のペテン師であつたという事になる。しかしもし、モルモン経が世にあらわされる様になつたそのいきさつに関するジョセフ・スミスの話が真実であるならば、モルモン経は今日印刷されている本の中で最も貴重なものに他ならない。何とならばモルモン経は多くの輝かしき、奇蹟的な、神よりの顕現を記している唯一の書であるからである。かの書は神より与えられた書であるかまたは全く不正な書かの何れかである。果して何れであろうか。このことについてどちらつかずと云う事はあり得ない。モルモン教はモルモン経の正真正銘なる事と確実なる根拠があるという事にその絶大なる主張をかけている。モルモン教が立つも倒れるもモルモン経如何に依るのである。イエス・キリストが肉体をとつて復活し給うた事がキリスト教の真実なる事を主張しているようにモルモン経がモルモン教の真実なる事を主張しているのである。もしもキリストの復活が作り話であるならばキリスト教は詐欺にその端を発しているのである。もしもモルモン経がいつわりであるならば、モルモン教は極悪非道な偽りに他ならない。キリスト教とイエスの肉体をとつての復活とは切つても切れない関係にあり共に立つか倒れるかである。モルモン教とモルモン経もそれと同じである。しかしながらキリストの復活についてもまたモルモン経それ自体も、最も才能のあるまた最もよき訓練を経た研究家達の探求調査にチャレンジとして与えられている。そして彼らはそのチャレンジを受諾し、キリストの復活の事実なる事とモルモン経の正真正銘なる事に対する証拠は極めて圧倒的なものであると結論付けている。懐疑者をして未だ機会がある間に気ずかしめ悔い改めさせよう。

我々の天父なる神は愛ある御方であり又憐み深い御方である。この地上での天父なる神とその子供達との交通路は未だ開け放たれている。それは事実である。そして私もまた確にそれを知つているのである。もし我々が自身の祈りに答えられるに必要な状態をもたらすならば、神は我々にイエスはまさしく復活し給うた事とモルモン経が我々の主張するようにモルモン教が真実なものであるという事を最もよく証明する物的証拠として奇蹟的な方法によつてもたらされた貴重な書であるとの確かなる知識を与え給うであろう。

按手による祝福

故十二使徒　マシュー・カウリー

兄弟姉妹の皆様、この福音の回復と共に「・・・信ずる者にはこれらのしるしともなわん」（教義と聖約八十四章六十五節）とのキ

リストの委任が繰り返し　与えられました。信ずる者には種々なるしるしがともなう事について私の心には何の疑いもありません。「病める者には按手を施せ、然らばその者は癒えん」。（教義と聖約六十六章九節）まことにその通りであります。

トンガで昨年あつた事ですが二十七年の間結婚していてしかも子供に全く恵まれなかつた夫婦がミッションホームへやつて来ました。この夫婦は子供がほしかつたのです。それで二人は子宝に恵まれるよう私達が二人の頭に手を按いて祝福を授けるよう頼みました。それでハンツマン伝道部長と私は二人の頭に手を按き、二人に祝福を授けました。ところが二人は癒やされる賜物を有つていました。実に二人はこれらの祝福に与る賜物を有つていたのです。今年の五月であつたと思いますが妻と私がトンガを訪問した時には子供が生れていました。・・・・・・

ニュージランドに於ける私の最後の伝道の時の事・・・・ある日私はとあるところに参りました。当時は戦争がたけなわな時でした。一人の若者がその子供をつれてやつて参りました。私にはその子供が生れて八ケ月位に見えました。ところでこの若い父親は「カウリー部長、あなたにこの子の命名式をして頂きたいのですが」と云つた。それで私は「祝福されるには随分月日の経つた子供のように見えるが、どうしてもつと早くつれて来なかつたのかね」と尋ねてみました。すると「あの、どうしても良い機会がなかつたものですから」と彼は答えました。それで私は「良いでしよう。名前は？」と尋ねました。彼はその子供の名前を私に教えてくれました。そして私がまさに子供を祝福しようとした時にこの父親は「子供に名前をつけている間に、どうぞ子供の目が見えるようにして下さい。この子は生れながらの盲目ですから」と話してくれました。極めて普通な事として・・・・極めて当然な事のように頼んだのでした。「あなたはこの子供に名前と祝福とを授ける権能を有つていますしまた目が見えるようにする権能も有つていますから」と・・・・・私は一本参つてしまいました。私は内心いぶかりました。しかしそのポリネシヤ人には子供のような単純な信仰、心理学や他の如何なる学問にもくもらされていない神に対する単純な信仰と神がその御子イエス・キリストを通してなし給うた約束について単純な信仰がある事を知つていました。それで私はその子供に名前を与え、そしてついに子供の目が見えるように祝福するに充分な勇気を盛り上げて行きました。

ヘルヴアーソン部長はこの小さい男の子を知つています。私は数ケ月前に彼を見ました。彼は今ではもう六・七才で至る所をかけまわつて居るのです。この子は今日、私が見る事ができると同じように見る事ができるのです。「病める者には按手を施せ、然らばその者は癒えん」。

（千九百四十八年十月三日の大会演説より）

発掘された死海の書（二）

末日聖徒に対するその重要性（承前）

ブリガムヤング大学
旧約及び文学教授　シドニー・B・スペリー博士

我々は更に討論を続けよう。

バロウズ博士によつて掲げられた、テキストの或部分を観察し、モルモン経の助けを借りまた出来得れば予言者ジョセフ・スミスの霊感訳聖書にも参照して見よう。

(一)イザヤ書六十章十九節

昼は日ふたたびなんぢの光とならず、夜は月もまた輝きてなんぢを照さず

イザヤの巻物は、普通の読方に「夜は」を追加し、ギリシヤ語、または或他の訳書によつて支持されている。巻物の追加は霊感訳聖

テキストは最も早期の真正なイザヤのテキストを含むと推定される黄銅版から取つたものであることを念頭に置かねばならぬ。

×××× ×××× ××××

私は巻物のテキストの或詳細な部分をモルモン経の中の相当する部分と対照した。

この根気を要した仕事で巻物はイザヤの伝統的マソラ、テキスト及びその結果認められた訳書から相違しているモルモン経に稀れにしか一致していない事が判明した。黄銅版に含まれているテキストで巻物に取除かれている著しい例として私はニーフアイ第二書に注意を喚起しよう。その大部分二十七章（三節ー三十五節）が恐らくイザヤ書二十九章の八節から始まつているものの原本のテキストであろう。誰でも比較して見ると分るように我々に伝えられて来た訳書の中で驚くべき大きな部分が取除かれている。私が巻物をモルモン経の相当部分に対照研究した結果は、如何なる結論に対したであろうか。

一、想像される巻物の古典さにも拘わらずそのテキストは、我々に伝えられて来た伝統的ヘブライ語のテキストより劣つている。

二、若し巻物に指定された年月日が正確であるならば我々はキリストの来る前にそのテキスト――イザヤ二十九章（ニーフアイ第二書二十七章対照）のモルモン経の出現に関する予言は、そのよき例である――に重大な変更が加えられたと結論せざるを得ない。けれどもニーフアイ第一書十三章二十四節ー二十九節の中に予言者ニーソアイはユダヤの聖文は子羊の十二使徒の手によつてユダヤ人から異邦人に行きわたる後背教し変更せられるであろうと示しているようである。（ニーフアイ第一書十三章二十六節を見よ）

小さな間違いはキリストの来る前に写す時に生じたであろうことは当然考えられることである。けれども我々が既にイザヤ書二十九章に発見したような大きな変更はニーフアイ第一書十三章に記されてあるように主の日の後に細心になされたものと考えた方がよい。若しも私の考えが正しいとするならイザヤの巻物は年月を少し早期に（私共に言わすれば約二百年）つけ過ぎている可能性があると考えられる。

三、イザヤの巻物は末日聖徒にとつてモルモン経の中のイザヤのテキストの示す古典さに比しわずかしか役に立たない。この点に関しギリシヤ、シリヤ、及びラテン語訳書の方が遥かに大きな奉仕をなしている。

上述した通りイザヤのモルモン経テキストはイザヤの巻物をテキスト批判の目的に用いる事は大いなる疑問に導くものと警告している。ヘブライ語のイザヤのテキストを巻物を基礎として検討するには細心の注意を要する。（未完）

質問欄

排他的なイスラエルが如何にして祝福されるか

「質問」

聖典を研究している時に、創世紀十七章、十八章及び二十二章にある主がアブラハムと交わされた聖約の意義について問題が生じた。我々はアブラハムの種族は偉大にして、且つ強大な国となり、この聖約は永遠に続くものであるという約束を理解するのであるが、しかし、「又汝の子孫によりて天下の民皆福祉を得べし」という約束を理解することが出来ない。イスラエルは歴史上普通「排他的な国」として存在し、他の周囲の国々と入り混じることを禁ぜられて居り、長い時代を通じて、ユダヤ人は、この排他主義を維持して来ている。では如何にしてこの地上の国々はアブラハムとその子孫とによつて祝

福されるのであるか。

「解答」

先づアブラハムへの聖約を正解すること

創世紀にある聖句は主がアブラハムと交わされた聖約の完全な意味を伝えて居ない。故に疑いもなく、国々に対する祝福の約束の多くは聖句の写し、または翻訳によつて失われてしまつていると考えてよかろう。アブラハムの書の中にもつと正確な説明が次の様に記されている。

「わが名はエホバなり。われは始めより終りを知る。これを以て、わが手汝を覆わん。われ汝を大いなる国民となし、汝を限りなく恵み、汝の名をすべての国民の中に大いならしめ、汝は汝の末の子孫にとり祝福の基となりて、汝の子孫は万国の民にこの導きと教えを施す職と神権とを携えて行かん。われ万国の民を汝の名によりて祝福せん。この福音を受くる者は皆汝の名によりて呼ばれ、汝のすえに数えられ、立ち上りて汝をその父として祝福すればなり。われは汝を祝する者を祝し、汝をのろう者をのろわん。また汝（すなわち汝の神権）による、そはこの権能は汝によりて継続し、また汝のすえ（すなわち文字通りのすえ、汝の体より出でたるすえ）によりて世界の眷族ことごとく祝福を得ん、すなわち福音の祝福にして救いの祝福、すなわち永遠の生命を得んという約束を汝に与うればなり」。（アブラハム　二章八節―十一節）

パレスチナにあるイスラエル国家の偉大さはこの質問の中にとり入れられていない。ダビデはイスラエルを尊重されるべき「力の国」とせしめ、ソロモンの時代に於てイスラエルの国の名声は知られたすべての世界の隅々にまでひびいたのであるが、ソロモン王の後期の時代に於ける罪悪とイスラエルの人々の反逆の故に、崩壊がもたらされ始めたのである。まず最初に十支族がアッシリヤに連れて行かれ、その国から彼らは今日まで二度と戻つて来なかつたのである。こうした追放によつて、多くの人は各自の道を進んで種々なる国々に入り込むようになり、それが現在の北部ヨーロッパの国々を形成するようになつた。しかしながら、イスラエル民族の大部分は神の手により後の世に回復されるためにかくされて居るのである。更に十支族が囚われて連れ去られた後一世紀余りすると、ユダヤの民はバビロンに囚われて連れ行かれ、その国から、多くの人はもどつて来なかつた。かくの如き、七十年に及ぶ囚われの時代の後、残存者はユダヤ国を持続させるために、パレスチナにもどつて来たのである。

洪水前の状態

この質問に於て考察されなければならない点は、国々がアブラハムに与えられた聖約により如何に利益を受けたかということである。第一に洪水前の状態について考えてみよう。主はアダムがエデンの園から放逐された後、彼に福音を教えられ、且つ子供たちにもそれを教える様に命令した。アダムは主の云われた通りに実行したが、サタンが彼らの間にやつて来て、「われもまた神の子なり」と、云い彼らに命じて言いけるは、アダムとイヴの言を信ずるなかれ、と。されば、彼らアダムとイヴの言を信ずることなくサタンを神よりも愛でたり。人はその時より、肉体、肉欲、悪魔に従う者となり始めたり。」（モーセの書　五章十三節）　ということを聖典から読むことが出来る。従つて、千六百年の間に、この世は堕落し、このため、主はこの世に洪水をもたらしたもうて、地球を不義、不正より清められたのである。洪水の後、ノアとその家族によつて新らしい生活のスタートが切られ、同じ誡命が与えられ、人はこの地上に増えまして、地球の隅々にまでひろがつたのである。しかしながら、洪水後、人々は間もなくして、再び主の誡命を忘れ、罪悪と偶像崇拝に身を委かすようになつた。このため、主はアブラハムをお選びになつて、故里　を去るようにお命じになり、且つこのアブラハム

の子孫を通して、国々は福音により祝福されるであろうとの聖約を交わされたのである。

「見よ、われ、わが手をもて汝を導かん。われ汝をとりて、汝にわが名、すなわち汝の父の神権を被らしむべし。さらば、わが力汝を覆いてあらん。」　（アブラハム書　一章十八節）

わが名は・・・・知らるべし

「ノアにありし如く、汝にもまた然あらん。されど汝が導きと教えを施す業によりて、わが名はとこしえにこの世に知らるべし。われは汝の神なればなり。」　（アブラハム書　一章十九節）

○・・・散乱された種族・・・

主がイスラエルの民を祝し、彼らに福音の祝福に与る資格を与えようとされたのは、地上の国々の間に、彼らを散乱せしめることによつてであつた。主はイスラエル人がパレスチナの地に入り、ゆづり に与つた後間もなくして、この散乱のための方策を取られたのであり、この散乱に関する詳細に亘る説明を得るために、ジョージレイノールズ長老の書いた「我々はイスラエル人に属するか」という書物を参考にすることが出来るであろう。この簡潔な歴史書の中に、イスラエル人の全地に及ぶ移住と混合の状態が描写されている故に、この大散乱について詳細に亘る説明を避けたいと思う。イスラエルの種族が異教徒の民と入り混つたという説明は、ペテロと他の使徒たちが「天下の国々より来る」、「敬虔なる」人たち――ユダヤ人たちに演説した時――ペンテコステの折に示されていると考えられる。これらの人たちは明らかに外国で生を受けた人であつた。何故なら、彼らは使徒たちの語る言葉を話すことが出来ず、各自はそれぞれ自分の国語にて使徒たちの語るのを聞いて、驚いたからである。モルモン経を受け入れる我々は、主がニーフアイ人とミュレク人をパレスチナより、西半球に導き出したということを知つているし、同様に、他の移住民も地球の他の部分に導き出されたのである。十支族がその後どうなつたか、我々には知らされていないが、ニーフアイ人の予言者たちの予言の言葉から、贖主の降臨するずつと以前に、イスラエル人が地球の全面に散乱せしめられたということを知ることが出来るのである。ニーフアイはこのことについて書き記している。

「それで、私が読んだことは肉体にも霊にも関係のあることである。それはイスラエルの家はおそかれはやかれ全地の面に散り、また万国の民と入り交るであろうと思われるからである。ごらん、もうすでにエルサレムにいる人たちにとつてゆくえ知れずの者が多くある。まことに全支族の大半はすでによそへつれて行かれそして海の島々にここかしこと散り乱れている。私たちはかれらがつれて行つてしまわれたことだけは知つているがそれがどこにいるかは誰も知らない。これらのことはかれがすでによそへつれて行かれて以来かれらについて予言せられ、またこれからイスラエルの聖者のために散り乱れるはずのすべての予言についても予言されている。それはこれらの人たちがイスラエルの聖者に対してその心をかたくなにするであろうし、またそれがために万国の民の中に散らされ、すべての人々に憎まれるであろう。」（ニーフアイ第一書二十二章三節―五節）

○・・・末の日に集められるであろう・・・

モルモン経の中には、旧約、新約聖書と同様に、この散乱について数個の聖句がある。それらすべてについて述べることは不必要であろう。主はイスラエル家のこれらの散乱せる人たちは、みな末の日に集められるであろうとの約束をされている。彼らは長きに亘る散乱より上の定めたもう時に聖約の地を受け継ぐ、ために寄り集まつ

て来るのであり、如何なる人の力も手もその妨げをなすことは出来ないのである。ニーフアイ人を訪れたもうた時、主は彼らに次のように云われた。「まことに、まことに汝らに告ぐ、われはこの地にも在らず、エルサレムの地にも在らず、またわれがこれまでに行きて教え導きし地の近所にも在らざるほかの羊を有つ。その羊はいまだわが声を聞きたることなく、われが　かれらに現われしこともなし。されど、ついにただ一つの群とただ一つの牧者のみあるに至るために、われがこの羊にも行きて、かれらがわが声を聞き、わが羊の中に数えらるるようにせよとの命を御父より受けたるによりて、われは行きてかれらに現われん。」（ニーフアイ第三　十六章一節～一三節）

かつて書かれた最も興味あり、且つ意義のある譬話の一つはゼノスに啓示されたものでモルモン経中のヤコブ書第五章に記録されている。これはイスラエル人の散乱に関する譬話であり、この言葉を完全に解き明かす鍵をもつているなら、イスラエル人が如何に地上のすべての部分に移　任せしめられたかを詳しく知ることが出来るであろう。

このようにこの散乱により、主はイスラエル人を国々の民と入り混らせ、そして異邦人にもアブラハムの祝福に与らせる機会をお与えになられたのである。我々は世界のすべてのところで福音を宣べ伝えているが、これは一体何の目的のためであろうか。異邦人の国々の間から、イスラエル家の失せた羊たちを集めるためである。実に、異邦人が祝福されるのはこの散乱によつてであり、異邦人が真実に悔改めるなら、イスラエル人に約束されたすべての祝福……「救いの祝福、即ち永遠の生命」に与る資格があるのである。

アンドラス伝道部長から
マッケイ大管長へ招請状

（第一信）

紀元千九百五十八年三月四日附
ユタ州ソルトレーク市大管長気附
デビド　・オ・マッケイ大管長殿

拝啓、この手紙を差上げます目的は、大管長が四月にニユージーランド神殿の献堂式を完了なさつてから本伝道部へ訪問して下さいますよう真心をこめてお招きをするためでございます。今日極東には、当教会が成長をし確立をするためにたぐい稀な好い機会が在りますによつて、このたび大管長が訪問をして下さいますならばその働きが非常に促進されることでございましよう。

千九百五十七年中に、日本人韓国人沖縄人合せて五百八十八名が改宗してバプテスマを受け当教会に加入した事実が証明しますように、主は本伝道部に在る宣教師たちの努力に今までにない成功をお恵みになつて居ります。いろいろのしるしは、千九百五十八年は改宗者獲得の成功に於て千九百五十七年をしのぐに違いないことを示して居ります。現在本伝道部には、当教会の伝道部に属する会員が二千名以上記録されて居り、その上合衆国軍隊と共に来て当教会の区域に住んでいる約一千名の会員も居ります。今度訪問して下さいますならば、特に千九百五十八年は宣教師が再渡日して以来十年目に当ることから見まして、本伝道部に在る当教会の会員すべてにとつて非常に好い刺激となりまた霊感を与えることでございましよう。

しかしながら、さらに大切でありまた私をしてこのたび厚かましくも大管長をお招きさせるのは、大管長が本伝道部を訪問なさいますならば、今日極東に於ける当教会にとつて数々の良い機会がある

書によつては支持されない。

㈡イザヤ書　五十一章十九節

巻物の読方「誰がなんぢを慰めんや？」はギリシヤ語、シリヤ語及びラテン語訳書によつて支持されているが、霊感訳聖書またはモルモン経によつては支持されない。

㈢イザヤ書　十四章四節

伝統的訳書では「金をはたる者」となつているが巻物では「無礼なる狂暴者」となつている。そしてこれは或程度ギリシヤ語、シリヤ語及びラテン語訳書によつて支持されているが霊感訳聖書またはモルモン経によつては支持されない。

㈣イザヤ書　四十五章二節

伝統的な訳書では「けわしき（文字通りではふくれた）をたいらかにし」となつているが巻物では「山々をたいらかにし」となつている。そしてこれは七十人訳聖書によつて支持されているが霊感訳聖書では支持されない。

㈤イザヤ書五十六章十二節

伝統的な訳書では「請われ酒をたずさへ来らん」となつているが巻物では「請われ等酒をたずさえ来らん」となつている。そしてこれはラテン語、シリヤ語、アラメック語訳書によつて支持されているが、比べて決定された霊感訳聖書によつては支持されない。

㈥イザヤ書四十九章二十四節

伝統的な訳書では「ローブル、キヤブテイヴ」（〃合法的捕虜〃文字通りでは「ザ、キヤブテイヴ、オヴ、ザ、ライチアス」〃義人の捕虜〃）となつているが、巻物では「ザ、キヤブテイヴ、オヴ、ア、タイラント」（暴君がかすめたる虜）となつて居り、シリヤ語及びラテン語訳書によつては支持されているが霊感訳聖書またはモルモン経によつては支持されていない。（訳者註、日本語訳聖書では「強暴者がかすめたる虜」となつて巻物に近似して居りその次の節「二十五節」の主の言葉も同じく「強暴者」となつている、ところがモルモン経では先の節（ニーフアイ第二書六章十六節）では「正当な捕虜」となつているが後の節（十七節）では「荒々しき者の獲物」となつて居る。日本語訳がどちらも強暴者でありまたモルモン経が十六節、十七節の前半が同じく勇士であるのに鑑み「荒々しき者」と言われた主の言葉は正当な捕虜即ち合法的捕虜を捕えた強大なる者を指し、暴君または強暴者の言葉は当らない）義人である強大な人をも全能の主は誓約の民を救い出す為に支配されるのである）

×××　×××　×××

私はアメリカの改訳者達によつて採択された十三ケ処の巻物の読方に就き我々の関心を満足させる迄列挙した。モルモン経及び霊感訳聖書両方とも列挙した巻物の読方に同意していないと言うことが出来る。モルモン経は必ずしも列挙した事を皆包含していない。私は改訳者達が採択した残余の巻物の読方をも検討したがモルモン経のニーフアイの記録に含まれているテキストは、その如何なる読方にも同意していない。霊感訳聖書は列挙せる巻物の読方の如何なる点にも同意していない。

今、イザヤの巻物の読方をモルモン経に引用されたイザヤのテキストに見出される或特別な読方に比較して見よう。著者と彼の以前の生徒H・グラント・ヴエスト博士はニーフアイの聖文はイザヤ書の約二十一章の完全な章の引用と其他の引喩を含んでいるという事を指摘した。

これ等のテキストの大部分が認められた訳書に符合するけれどもモルモン経は一般に知れ亘つた訳書と著しく異なつた読方を含んでいる。若し巻物の読方が相当数に於てモルモン経の異なれる読方に一致するなら、我々はその事実は着目すべきものであると評価するであろう。兎に角、末日聖徒はモルモン経のイザヤのテキストの内に巻物のテキストの正確さを評価し、その歴史に関する興味ある事実を決定する対照標準を持つている。我々はモルモン経のイザヤの

ことを大管長が親しく観察し評価なさることができるであろうという事であります。大管長が親しく観察し評価して下さいますならば、今度はそれが数々の良い機会の大きさに相応した決定と方針とになることでありましょう。そして、その結果は北部極東および南部極東伝道部の国民全体を通じて健全な基礎の上に著しい進歩となるでございましょう。香港からの報告は本当に大きな機会が同様に南部極東伝道部にもあることを示して居ります。もしも大管長が訪問なさいますならば、当地の本伝道部に於ける働きにはもちろんのこと、彼の地に於ける働きにも非常な助けとなることでございましょう。

大管長には数多くの責任がございますから、このたび極東を訪問なさることは恐らくできないことでありましょう。しかし、もしもそうであつても私どもには本当によく解ることでございます。しかしながら、私どもは、大管長に於かれましては辺境に於ける当地の私どもを訪問なさいますことができて、アジヤに於ける何億という人々の間に福音を弘め王国を建てるため親しく導きをお与え下さいますよう、心から祈り奉ります。　敬具

伝道部長　ポール・C・アンドラス

（才二信）

紀元千九百五十八年三月十日附

ユタ州ソルトレーク市大管長会宛附

デビド・オ・マッケイ大管長殿

拝啓、この前、大管長に極東を訪問して下さいますようお招き申し上げましたことに関連して、私は現在ある数々の良い機会とこのたび大管長が訪問して下さることが非常に必要であることに就き、今少しくわしくお知らせしたいと強く感じて居ります。三月四日附の手紙の中で、私は極東に於ける当教会のために非常に良い数々の機会があると申し上げました。これは全く本当でありまして、私の考えますところでは、全世界を通じて北部極東伝道部ほど偉大な好機会にめぐまれている伝道部はどこにもございません。例外は一つもございません。私の考えは、日本と韓国と沖縄にはおよそ一億一千六百万の人々があつて、その非常に大多数はわが教会の宣教師に対して親切であり喜んで迎えるという事実に基いているのでございます。全く福音の言葉を伝えるのを聞こうと待ちかまえている文字通り何千何万という人々があつて、この人々は福音の言葉を聞く時に悔い改めてそれから後の一生は当教会の忠実な会員となるにちがいありません。大管長は「マシュー・カウレイ長老が日本旅行の後千九百四十九年十月の総大会で報告された言葉を憶えておいでになると思いますが、その中でカウレイ長老は「日本に於て、私たちは宣教師の働きにとつて当教会の歴史上かつて聞いたこともなければ読んだこともない最も偉大な機会を有つている。・・・私たちは日本に於てまことに驚ろくべき機会を有つている」と申されました。それからほとんど十年の年月が流れて居りますが、カウレイ長老の言葉は今なおそのまま本当であります。なおその上私たちは韓国と沖縄、特に韓国に於て本当に著しい好機会を有つて居ります。

これらの見事な好機会を最もよく利用するために私どもは第一にもつと多くの宣教師を必要とし、第二に完全な規模の集会所を多数に必要といたします。現在私どもは総計百三人の宣教師を有つて居りますが、その中十人だけが韓国に八十五人だけが日本に居ります。日本に居る宣教師の中の八人は当伝道部の会員で、主として当教会の会員である軍人の寄附によつて援助を受けて居ります。当伝道部の宣教師は日本の主要都市の中の廿一箇所でだけ今働いて居ります。もしも宣教師さえ充分であれば、畑は本当にすでに白くなつて刈り入れを待つて居ります。

当伝道部のどこをたずねても一つも適当な建物がないということは、まことに悲しいまた非常に残念なことでございます。伝道部が日本に再開されまして以来、すでに十年以上を経て、当教会は今十七箇所の支部に財産を所有して居りますが、全伝道部を通じて一箇所も適当な集会所がございません。全く、一つもございません。今存在する数々の偉大な好機会に手をつけ始めるために、私どもはど

の支部にも一つのこらず完全な設備を持つた集会所を必要といたします。

当伝道部に於ける改宗者獲得の機会は本当に偉大でございます。私の考えますところでは、今こそその機会を利用する時でございます。実際のところ、当教会はすでに少々手をつけ始めて居ります。千九百五十七年中に宣教師からバプテスマを受けた五百八十八人の改宗者は、千九百一年から千九百二十四年まで元の日本伝道部が開かれていた廿三年間にバプテスマを受けた全部の改宗者の三倍半となります。これはまた千九百五十五年に当伝道部でバプテスマを受けた五十五人の改宗者の十倍以上になります。私の考えますところでは、当教会の進歩発展は今や主として宣教師の不足と集会所の施設の不足とによつて制限されて居ります。今行動によつてこの事態を改善しなければ、この偉大な好機会も当教会を素通りしてしまうにちがいありません。

主の御恵みによりまして、千九百四十五年の終戦以来私は日本でほとんど六年の年月を過させていただきました。この六年間に私の得た経験によりまして、特に伝道部長として過去二箇年に得た経験によりまして、この伝道部に於て教会をずつと助けるためには何をなすべきかに就いて、私はある具体的な考えをまとめ上げました。私はその案を有つていますが、その案の実行に着手する権能がございません。それで、これらの案が実際的であるか否かに就いて大管長の指図を受けるために私ども訪問して下さいますことができるよう心からお祈りするわけでございます。その時、もしも大管長の御考えでこれらの案が実際的でありましたなら、決定をして下さいましてこれらの案を実行し始めるのに必要な方策を定めて下さることができましょう。

もし大管長がおいでになれない場合には、幹部の方が極東を訪問して下さるよう何とぞ準備を整えて下さいませんでしようか。お気附きの通り、本伝道部が千九百五十五年にジョセフ・フイードリング・スミス十二使徒会長によつて組織されまして以来、これまで幹部の方は一人も訪問をするように指定されておいでになりません。もちろん、ベンソン長老が千九百五十七年の十月に東京を通過されましたが、ベンソン長老は農務長官の資格で来日され、非常に日程が多忙でありましたために最も全般的な言葉のほかには何にも当伝道部に就いて話し合う機会はございませんでした。私どもは決定をする権能を有つておいでになるお方を必要として居ります。この伝道部の中の当教会の進歩発達はそのことにかかつて居ります。

北部極東伝道部に属するすべての宣教師と会員とは、大管長がこれから数箇月にわたつてなさる数多くの責任を無事お果しになるよう、私と共にお祈り申し上げます。

敬具

伝道部長　ポール・シー・アンドラス

極東訪問は難かしい

（マッケイ大管長の返信）

紀元千九百五十八年三月七日附

日本、東京、北部極東伝道部

ポール・シー・アンドラス伝道部長殿

拝復。来る四月の廿日ニユージランド神殿の献堂式後すぐに北部極東伝道部を訪問するようにと私が招待を受けました千九百五十八年三月四日附のお手紙、今朝正に落手しました。

まず第一に、三月四日投函のお手紙が三月七日の早朝手もとに届こうとは驚ろき入りました。全く近代の輸送機関は目ざましい、驚きました。次に合衆国軍隊内の当教会々員約一千名を数に入れずに、貴伝道部に属する二千人の会員があることに就いてお祝いの言葉を申し上げたい。北部極東伝道部の面している将来はまことに輝やかしい将来であります。

この九千万に余る民を有する国をあなたと共に訪問するよう御招待を受けたことを感謝します。私がヒュー・ジェー・キャノン長老と共に当時ジョセフ・ダブルユ・ステブソン伝道部長の管理下にあつた日本伝道部を訪問して以来、すでに三十八年の年月が流れているとは思えません。私はそのクリスマスの季節に逢つた教会員の中数人の人々の名前を今でもはつきり思い出します。

千九百五十八年に北部極東伝道部を訪問するようあなたから受けた招待をお受けしたいと大いに願つては居ても、ニュージーランド神殿の献堂式がすむとすぐに英国へわたつてロンドン神殿の献堂式の準備に臨まなければならぬ義務があるので、訪問は事実上不可能となるにちがいありません。現在報告されているように、ロンドン神殿は来る六月三十日ころ完成をして献堂式の準備は早くも八月と定められることでしょう。

従つて極東伝道部へ私たちが訪問することはいつか後日まで延期せねばならぬでしょう。貴伝道部の会員各位へ何とぞよろしく、また会員各位がキリストの福音の理想に対して引つづき忠実であるよう祈りをこめて願つていることをお伝え下さい。

この偉大な伝道部の伝道部長として、主があなたを引つづき御導きたまわらんことを。　大管長　デビド・オ・マツケイ

大管長会の返信

紀元千九百五十八年三月廿日附
日本、東京、北部極東伝道部
ポール・シー・アンドラス伝道部長殿

拝啓、千九百五十八年三月十日附発、大管長会気附デビド・オ・マツケイ大管長宛の御手紙マツケイ大管長から大管長会へ只今提出されました。御手紙は非常に興味ありまたわれわれを力づけるものであつて、御手紙の中に挙げてある次の特別な項目が注目されます。すなわち、

一、宣教師の働きに好都合な大きな機会、これはあなたがその概略を述べておられます。二、あなたが多数の宣教師を必要とされること。三、また多数の「完全な規模の集会所」も必要なこと。四、あなたがマツケイ大管長に貴伝道部を訪問してもらいたいと願つておられること、または大管長の訪問ができない場合には幹部の中の一人に貴伝道部を訪れるよう指定してもらいたいと願つておられること。であります。

宣教師の働きに好都合な数々の好機会に関しては、あなたがこのことに対する著しい好機会を概説して下さつたことを感謝します。もつと宣教師が欲しいというあなたの願いに答えて、われわれはわれわれの受取る多くの推薦の中から当教会に属する数多くの伝道部の必要を最もよく充たすように宣教師を配当する義務を負つていることをお知らせします。あなたが手紙の中で言われた好機会は、かなり永い間心にかけてきたものであつて、貴伝道部のために無理でない召しを行うことができるときにはそのようにします。またあなたの必要を絶えず心にかけて行くつもりであります。

教会堂のことはいつも問題であります。すべての場合、われわれは財産を獲得したり建物を建てたりするための満足すべき推薦に基いて行動しています。思うに、このことは現在の推薦と各々の場合就いての研究にゆだねなくてはならないでありましょう。

ニュージランド神殿の献堂式のためにかの島を訪問するようマツケイ大管長が提議された旅行によつて、大管長が貴伝道部を訪れることができなくなるのを残念に思いますが、幹部の一人の訪問をあなたが必要とすることをわれわれは心にかけ、それ故にあまり遠くない将来に訪問の任命をしたいと思つています。あなたが多くのものを費して働いておられることを感謝すると共に、主があなたに祝福をたまいあなたが現在従事しておられる偉大な働きを栄えさせたもうよう常に祈り奉る。大管長会　ステイーヴン・エル・リチャーヅ
ジェー・ルーベン・クラーク・ジュニヤ

信仰と証詞

二つの恵み

横浜　渡部正雄

これは自分の娘たちの事で恐縮ですが、本部の同僚兄弟達が会員の為に発表すべきだと言われますのでありのまゝを御報告させていただきます。

二月十九日の夜から二十日の朝にかけ次女の安子が高熱と下痢で殆ど眠らず一夜にして別人の如くしようすいしてしまいました。本部の仕事が終るとその日MIAでしたが私は欠席して急いで家に帰りましたら妻は死んだようにねむつている安子を不安そうに見守つていました。医者に見てもらつたら疫痢かも知れずなぜこんなにひどいのに夜中にでも連れて来なかつたのかと叱られ、葡萄液を三本注射してくれたそうです。

気の弱い子で注射すると必ず泣く子でしたがその時は泣く力もないのか泣きもせず殆ど口もきかなかつたそうです。医者は泣いてくれた方が安心だと言つたそうです。眼がすつかりくぼんで顔は真青で口唇の色もありません。私はこれは容易ならぬと思いまして家族の者を皆集め灌油の儀式を施し家内一同で主に祈りました。

それから家内一同別室で夕食をとつていますと、「父ちやん」と呼ぶ声がするのです。急いでふすまを開けて見ると眼をぱつちりと開いて首を持上げこちらを見ているのです。見るとほほが赤くなつて眼が生き生きとしているのです。「お水頂戴」と言うので少しづつコツプに入れて三度程飲ませますとすつかり元気づいてお話を始めたのです。私たち家内一同はあまりに大いなる神の恵みにただ感謝感激するばかりでした。翌早朝におかゆを食べたいと要求し一膳のおかゆを食べるとも う平常と変らぬ元気さになりました。

一月二十五日（土曜）私が家に帰りますと長女の聖子が沈んだ顔をしています。どうしたのかと尋ねるとお友達がミルクノミ人形を持つていないと仲間入りさせてくれないので ミルクノミ人形を買つて欲しいと言うのです。私はお父さんは教会でお金を戴いて働らいているのでそのように高価な人形を買うことは出来ない。その代り何か買つてあげるからとなだめたのですが遂に泣き出して食事も取らず床に入つたようでしたが日課のお祈りは忘れなかつたようです。翌日が安息日で私は夜の教義と聖約のクラスを終えて遅く家に帰りますと聖子はさも嬉しそうな顔をしてミルクノミ人形と枕を並べて寝ているのです。驚く私に家内が竹下姉妹の処で妹さんの久子さんに戴いて来たと言うのです。私は恐らく聖子が頂戴と言つたのだろうと思つて当惑し翌朝起きるが早いか聖子を呼び詰問したのです。ところが聖子は「そんな事言わないよ、只聖子はあの晩神様にお祈りしてねたのよ。だから神様が恵んでくれたのでしよう」と嬉しそうに答えました。これが真実かどうかは私にはわかりませんが久子さんが（二月十五日にお母さんと姉さんと三人でバプテスマを受け信仰の一家となる）神の愛を以て聖子を愛して下さつている事はたしかです私共一家は常に此の外にも多くの霊的にまた物質的に兄弟姉妹の大きな愛を受け限りなき神の愛に感謝の日々を過して居ります。

証詞

西宮　安芸　宏兄弟

昭和二十四年の十二月に罪深いこの私が主の恵みによつて導かれ、罪の赦しの

バプテスマを受ける機会が与えられて以来、満八ケ年余、数えられぬ程、豊かな祝福を頂きながら自分の性格から出る欠点だと理由をつけて、全く永い間、神様のために働くことが消極的でした。そして宣教師や伝道部長様にもいろいろと不必要な心配をおかけしたことすら屢々あり、本当に恥しく思つておりました。

然し今こそ私はこの「聖徒の道」の一頁を頂いて、私に与えられた警告と勧告に従つて、神様が人間の救のために準備された教会の諸計画に積極的に参加し、主の前に心から悔改めをすることを、愛する兄弟姉妹の前に申し上げる決心の出来ましたことを感謝しております。

「いわたる猛虎は小さきねずみに敵せず、汝何時まで惰眠を貪るや、起ちあがりて腰に帯し戦の場に馳せ行くべし。身の不肖を恥じず、汝のおもいをわが息子娘の前に示して我への捧物とせよ、汝言葉の拙きをはずるに及ばず、我れ、彼等に働きて、良き実ぶ糧とせん。而して後汝は最早や眠れる虎にあらず、猛虎なり」

神様は実に肉体を具えて生き給い、イエス・キリストは唯一人の救主であることを一点の疑もなく証詞致します。ジョセフ・スミスは神とキリストの指示によつて、真の教会を恢復しました。神様はこの末日聖徒イエス・キリスト教会を通じて、救の計画を遂行され、私達に豊かな生命を与えて下さることをよく知つております。この証詞は私にとつて理論や証明を超越して神の御霊によつて示されたものであり、最も価値のある財産です。私は愛する兄弟姉妹の皆様がいつも喜びに満ちた生活が送られます様、お祈りさせて頂きます。

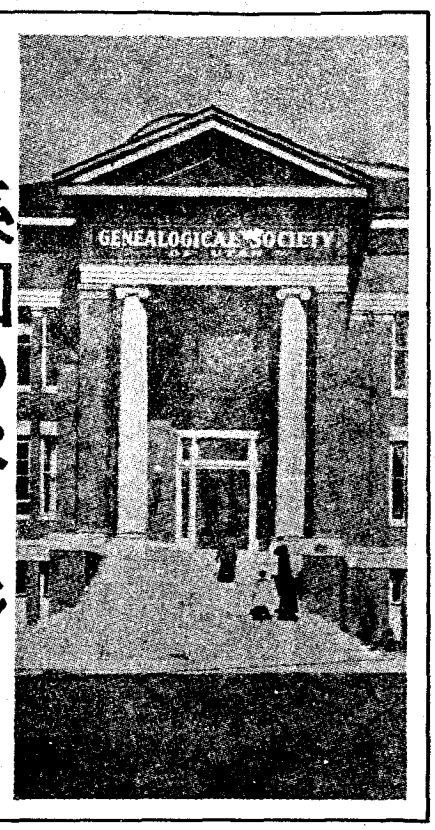
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

図書案内

教義と聖約・高価なる真珠・モルモン経合本	1,100円
教義と聖約・高価なる真珠	300円
モルモン経（新訳）	300円
新旧約聖書（口語体・文語体）	300円
回復された神の教会（神権会用）	150円
日曜学校	
福音の実践	150円
古代アメリカの生活	100円
万人のよきおとづれ	100円
古代の使徒	100円
聖典中の指導者	150円
霊的成長（2）	150円
新求道者のための福音の根本原則	25円
初等協会用教課書	150円
MIA	
完成への道	200円
信証講義	200円
演劇脚本集	50円
役員と指導者の手引	100円
ゲームとその遊び方	50円
讃美歌	
末日聖徒讃美歌	300円
末日聖徒讃美歌抜萃	30円
子等は歌う	100円

御註文は各支部長へ
（価格は一部変更しましたから注意して下さい）

系図のページ



ステーキ部系図組織

ステーキ部系図組織は
一、ステーキ部会長
二、二人の副会長
三、書記
四、バプテスマの主任
五、其他必要な役員

系図及び神殿の仕事に於て大神権との大きな協調を得る為に大管長会は強力に、ステーキ部系図会長はステーキ部高等評議員会の会員たる事を推薦しました。一人の副会長は七十人会で、他の一人は長老でなければならない。

ステーキ部系図組織の他の役員は特に性又は神権に制限されていない。只通常バプテスマの主任は女性の方が好ましいだけである。

活動的なステーキ部に於てはその仕事の分量に応じて、若しそれが望ましいなら、ステーキ部系図委員会に更に委員を追加する。これはステーキ部長とステーキ部会長の判断によつてなされる。或ステーキ部に於ては、探査及び家庭教授（ホーム、テイーチング）の主任を正規のステーキ部系図委員に追加する。

任命・・・

ステーキ部系図会長はステーキ部長会によつて任命される。会長は彼の補佐たちの姓名を推薦する特権を持つている。この特権はただその補佐たちを指名するに止る。彼は彼等に話す前に彼等の姓名を、ステーキ部長会に提出しなければならない。ステーキ部長会は系図会長によつて系図委員に推薦された人を認めない事を得る。若し認めた場合はステーキ部長会は任命状を出し召された人をステーキ部系図組織の他の役職に聖任する。

ステーキ部会長はステーキ部系図委員会で彼と共に働らいてもらいたい人々の姓名を仮に選んで推薦する事が彼の義務であることが強調されねばならない。ステーキ部長はそのような地位の為の候補者たちを求めることを必ずしも必要としない。

管轄・・・

ステーキ部系図組織はステーキ部内のワード部の監督会と協力してワード部系図委員会を管轄し系図及び神殿の仕事についてワード部系図委員会に対し指示、援助及び忠告を与える。ステーキ部の系図組織はステーキ部内で行われるすべてのそのような活動に就て、（ただ日曜学校の管轄する系図教育のクラスを除く）ステーキ部長会に対し直接の責任を負う。

ステーキ部会長

ステーキ部会長は全般的な監督を行い、ステーキ部会員の神殿に出席する事を奨励し、一月及び九月の第一日曜日の夜の集会のプログラムの概略を提供する。

彼は「ホームティーチング及びカツテイジ・ワーク・ナイト」の章の指示に基き積極的にホーム・テイーチング・プログラムを促進する責任を有する。彼はステーキ部系図委員と共にワード部の報告を完全に調べて各ワード部のホーム・テイーチング・プログラムの成功又は失敗に寄与している原因をつきとめ、この調査に基づき毎月のステーキ部系図合同集会に於ける教育及び活動計画を作成せねばならない。

ホーム・ティーチング・プログラムや其他の系図並に神殿の仕事の活動をより完全なるよう奨励する為、ステーキ部会長はステーキ部委員会の会員をして定期的にワード部の機関を訪問するように任命する。

ステーキ部会長は家庭機関（系図の）を育成し認められた線にそうて家族の探査を増強させる責任を負う。

前述の通りステーキ部会長は系図の探査の仕事や、ホームティーチング又は其他の委員会の機能に於て更に援助を必要とする時は、ステーキ部長会の許可を得てこれ等の仕事の専門家を委員会の追加会員としてその奉仕を頼む事が出来る。

そのような任命をした時、その委員の義務のアウトラインを決めるのは、ステーキ部会長の責任である。かくして任命された新しい役員は会長の希望と仕事の種類又は類似性によつて直接ステーキ部会長又は彼の補佐の一人に対し責任を持つ。

＊＊＊　＊＊＊

ステーキ部補佐（副会長）

一人の副会長はステーキ部からのエンドウメント及び結び固めの任命（予約）を全般的に監督し神殿からステーキ部会員によつて執行された儀式の登録報告を受取る責任を持つ。

他の一人の副会長はすべてのステーキ部のバプテスマの任命（予約）を全般的に監督する。後者はステーキ部委員会のバプテスマ監督と共にバプテスマの責任を持つワード部副会長を通じ代理で神殿の儀式に参加する正確な数を予約する。副会長は又、ステーキ部会長の要求によりステーキ部合同集会及其他挙行せられるかも知れないステーキ部系図集会を順番に司会する用意をすべきである。

書記は集会及び決定的事項等の記録を保ち系図協会に四半期報告（附表参照）を作成郵送する。書記はエンダウメント及び結び固めの任命の責任を持つ副会長から、なし終つた神殿の働らきの登録報告を受けこれを根

ステーキ部神殿及系圖委員会報告書

（四月、七月、十月及一月の各月十五日迄に系圖協会へ送付する）

ステーキ部名＿＿＿＿　合同集会開催数＿＿＿＿　四半期最終月＿＿＿＿

ステーキ部内ワード部数＿＿ステーキ部系圖委員会委員数＿＿＿＿ステーキ部系圖委員会開催数＿＿

ワード部名稱	ワード部会員数	ワード部委員数	ワード部委員会開催数	エンドウメント 儀式（四半期合計） 大祭司	七十人	長老	神权者合計	女性	出席（各人一回として数う） 大祭司	七十人	長老	神权者合計	女性	ホームティーチング 最初の家庭訪問	家庭再訪問	カーティージウォークケイト	作成されたペディグリーチャート	作成されたファミリーグループシート	作成された個人記録
四半期合計																			
昨年度用上四半期合計																			
本年度總合計	×	×	×																

註：貴ステーキ部に若し八部以上のワード部がある時は他の用紙に追加のワード部を記入せよ。

説明、参照、及び特別活動又は一般大会は裏面に記載せよ。

署名＿＿＿＿
ステーキ部系圖委員会長

署名＿＿＿＿
書記

源として四半期報告に必要な資料を含む神殿の[illegible]きの写しを準備する。写しを作り終えたら登録報告はワード部会長の検討に資する為に彼に送られねばならない。

正式な報告はただ四半期に準備されるとは言え登録報告は毎月の末、神殿より受け、単に四半期報告作成を容易ならしむるのみならず、ステーキ部会長、ワード部会長に神殿の中で執行された儀式及びこの務めに参加した人の正確な統計を提示出来るようその資料をまとめる。

書記は又、ステーキ部内のホーム・テイチング及びカッテイジ・ウーク・ナイト活動に関する資料を編纂する責任を負う。この情報は、ワード部書記よりステーキ部書記に提出されたワード部四半期報告から得られる。

ステーキ部のバプテスマ主任

ステーキ部のバプテスマ主任（出来るだけ女性がよい）はステーキ部よりのバプテスマの任命を管理する副会長と密接に協力しステーキ部より神殿にバプテスマの代理を務めに行く如何なるグループをも直接監督準備し、なされた事の適正な記録を保存する。若しも主任がステーキ部からの如何なるグループにせよ個人的に共に神殿に出席する事が出来ないときは、その代理人として誰かを出席させ適当な監督を行わせる事を確実になす義務を持つ。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

ファミリ・グループ・シート（家族の記録）及ぺデイグリチヤート（系図）を今日提出しよう

予言者ジョセフ・スミスは次の通り言われた。

「而して彼等は如何にしてシオン山の救う者たちとなる事が出来るであろうか？彼等の神殿を建て浸礼盤を設け、行きて、死せる彼等のすべての先祖の為にすべての儀式、バプテスマ、按手礼、聖なる洗い、灌油、聖任及び結び固めの権能を彼等の頭上に受け、彼等（先祖）が第一の復活にあづかるよう彼等を贖うことにより・・・・・」

また現代の啓示教義と聖約に之を見よう。

「見よ、主の大いなる日は近づけり。主の来りたもう日に当り得るは誰ぞ。主の現われたもう時、堪え得るは誰ぞ。・・・この故にいざわれら一教会員として一人の民として、また末日の聖徒として、義しきに適う捧物を主に捧げん。またいざわれら、主の神殿の完成せる時、その中に於て、主が完全に受け入れたもう価値ある、われらの死者の記録を載せたる一冊の書を主に呈せん」（教義と聖約第二十八章二十四節）

「またおよそ一切の記録を整頓して、以て聖なる神殿の文庫にこれを蔵め、而してこれを末代までの記念とすべし。万群の主かく言いたもう」（教義と聖約第百二十七章九節）

我々が我々の先祖の為に系図及び家族の記録を速かに記入する事は主の命じ給うところである。先祖が救われる事なくして私達は救われる事が出来ないのです。

「我に対いて主よ主よという者、ことごとくは天国に入らず、ただ天にいます我が父の御意をおこなう者のみ、之に入るべし」マタイ伝七章二十一節

中央地方部大会、指導者会に於ける系図集会

中央地方部各支部に於ける系図及び神殿の仕事を促進する為四月十三日の中央地方部大会の指導者会に於いて地方部系図集会を開催、東京北支部を始め既に系図委員会を組織してある支部よりは系図委員会の全員、又未組織の支部よりは系図委員候補者たる代表者に出席願い、委員会組織要領、系図、家族の記録等の実際的記入方法、其他系図全般に亘っての質疑応答を試み、本伝道部他地方部が次回の大会に於て同様の系図の集会を持たれるよう参考に供したいと思って居ります。

伝道部系図委員会長　渡部正雄

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

系図会発会に寄せて

岡町支部系図委員会
第二副会長　阪本幾代

聖徒の道二月号を手に致しまして、私は伝道部長メッセーヂ「系図」アンドラス伝道部長のお言葉を拝し実に喜ばしく存じます。而して全国の系図委員会の大元締たる系図協会を伝道本部に設置して頂き其の会長として渡部兄弟が聖任せられます由とニュース欄の渡部兄弟の御挨拶を読みまして心より嬉しくただただ感謝致しております。

岡町支部では昨年十一月に系図委員会を発足致しましてから毎月二回づつ、いつも第一、第二日曜日の聖餐式の後で四十五分間づつ、系図の会を開催して会員各位に死者のバプテスマが如何に大切なる事。是非共必要なる事、神殿内での儀式なる事、会員の先祖の救いの為に系図を調べる可き事、其の方法と定められた記入用紙に記入の方法などについて、系図に関する知識を深める為に努力して参りましたが、今日迄は何分本部からの直接の御指示もなく、質問に対して長老方から確たる御回答を頂く事も出来ず、役員たる私達も非常に困る事がございまして其の会に出席者数を増し、会の発展の為には如何なる方法を採る可きか等と会員方のアンケートを集めて居りました。

此のような時に聖徒の道二月号を拝読し胸をなで下す始末で誠に喜びにたえません。これからは一層に岡町支部系図委員会に力を入れて、祖先に喜ばれるような子孫になりたいと存じます。

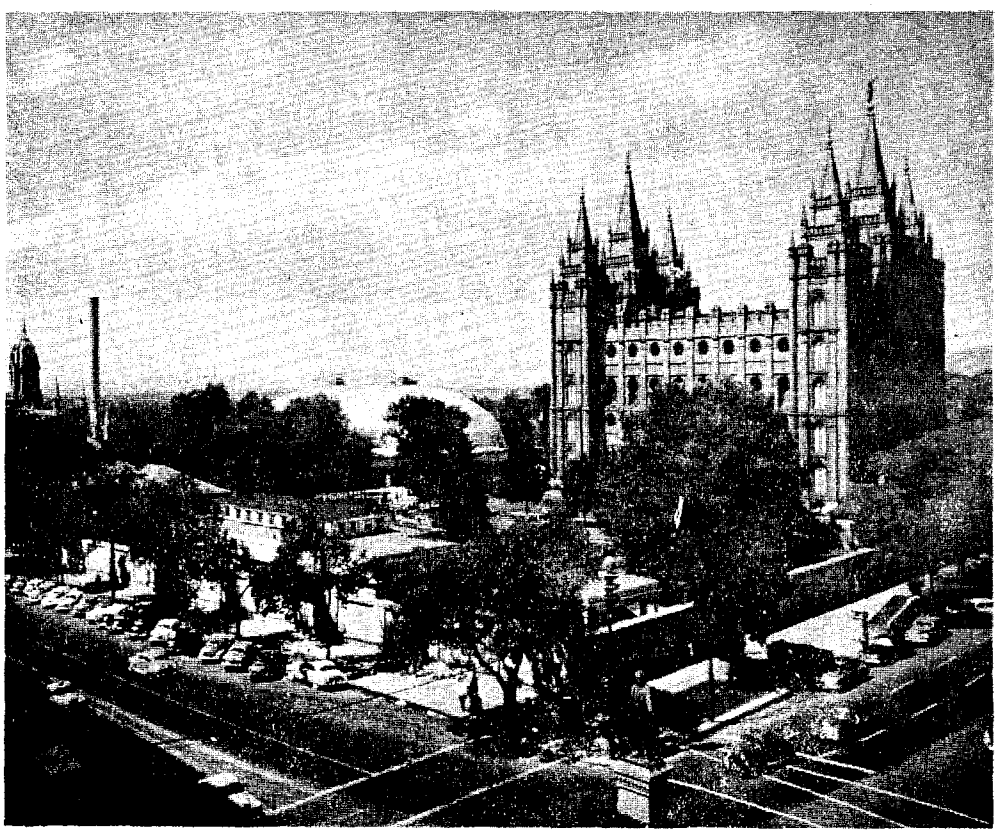
神殿の門から

ジョン・エイ・ウイヅソー の霊感された言葉「神殿の中で無報酬で働いている数千の男女が、末日聖徒の働きの精神を能弁に物語っている。このような無私無欲な態度は軽調浮薄な現世代に対し、永遠という深い思想を投げかけている。或日私はソルト・レーク神殿から出て来る一群の神殿内で働いている人達を見守った。

私はその人々が出て来るのを見た時、ほんとに憂すべき人々であると思った。その瞬間、私に「主の神殿の門から、天の軍勢が此の世を覆い、この世を良くし天父の目的を完成する為に来るであろう」と言う声が聞えたような気がした。そして恐らく他の如何なる門からも、これ等の軍勢は我々を援けに来ないであろう。

（ユタ系図誌　二二：一〇五）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊



ニュース欄

室蘭に系図委員会

(一)系図委員会

当支部では新しく系図委員会が誕生しました。第一回会合に於てエリス長老から死者のバプテスマについてと系図調べの方法、記入方法についてお話を聞く、また書類を配布して研究することに決める。

役員左の通り

(会長)石井正道(委員)高橋正徳、清水けい子、(書記)広田キヌ

(二)建設委員会

当支部では新しい教会堂を少しでも早く建てる様にと建設委員会が出来る。会長梅津兄弟より具体的な話しがあり一年間の予定表を作る。次回に最終決定をすることとし全員努力する事を約束して散会す。

(会長)梅津清美、(委員)石井正道、川崎英三、佐藤功、細谷礼子小坂城子、(書記)大木あつ子。

(三)補助組織の役員移動

多くの会員に責任を与え支部の活動を盛んにするために役員の移動あり新役員は次の通りである。

◎日曜学校(会長)藤木兄弟(第一副会長)鈴木兄弟、(第二副会長)梅津兄弟(書記)川上兄弟。

教師(子供、下級)井口姉妹(中級)くりや川姉妹(上級)堀内姉妹

(大人、中学生)吉川姉妹、◎MIA(会長)梅津兄弟(第一副会長)石井兄弟(新会長)清水姉妹(旧会員)小坂姉妹、(求導者)石井兄弟(新会長)清崎兄弟(書記)西山兄弟、

伝道本部だより

(二月二十八日現在)

宣教師到着

一月二十一日ロサンゼルスの飛行機で四人の新らしい宣教師が来日した。(写真次頁)

ユージーン・ディル長老
クライン・G・キャハベル長老
セベート・M・ナンター長老
ルロン・N・ポーター長老

なお二月二十八日にも新たにマーク・トマスオールドロイド長老がユタ州から来着した。

宣教師移動

デリース・キング長老　旭川へ
マーク・オルドロイド長老　旭川へ
マリー・クルツク姉妹　横浜へ
マリリン・ハダ姉妹　札幌へ
野田良江姉妹　岡町へ

支部長任命

ダニエル・カメロン長老山形支部長
神谷富保長老　福岡支部長

解任

リチャード・オースチン長老(ユタ)
エバン・ラーセン長老(ユタ)
ラリー・シャムウエイ長老(アリゾナ)
ラリー・D・オルム長老(アイダホ)

神権授与

(日　月)(氏　名)(神権)(支部)
一　三〇　佐原　正　執事　東京南
一　二六　北田　義光　祭司　東京南
一　九　鈴木　正治　祭司　宝蘭(東京西)
一　一〇　古川　美保子　(名古屋)(松本)
一　一〇　中野　ヨシヤス　祭司　新潟
一　一九　大島　広瑞　執事　小樽
一　二六　日下　章　執事　柳井
二　二一　太田　礼二　執事　福岡
二　一一　萩本　信吉　教師　前橋
二　一一　西条　泰一　執事　横浜
二　九　滑川　秀二　教師　東京南
二　三〇　石谷　忠造　執事　山形
二　九　筑田　徳一　祭司　広島
二　九　堀山　克宏　祭司　広島
二　九　滝沢　喜八　祭司　東京南
二　五　宮田己之吉　祭司　前橋
二　二六　川島　和男　教師　横浜
二　八　下村　英吉　祭司　東京中央
二　一一　斎藤美津雄　執事　東京中央
二　一一　小室　敬　執事　東京西
二　一一　笹岡　忠義　教師　東京西

バプテスマ

曳山　光子(仙台)
川原林　和子(宮)
真木　慶子(宮)
横井　千恵子(室蘭)
太田　世子(室蘭)
大野　カメエ(東京中)
大野　ゆう子(東京中)
寺島　暁人(東京中)
若松　優子(東京中)
平川　雅保(東京中)
橋本　一葉(阿倍野)
韓　恩英(韓国)
朴　敏子(韓国)
金　運斗(韓国)
斎藤　豊子(室蘭)
小野寺　幸夫(室蘭)
只木　喜美枝(室蘭)
堀　道子(岡町)
竹井　美奈子(岡町)
吉田　節子(岡町)
山口　弘子(札幌)
内山　陽子(札幌)
内山　輝(札幌)
田村　正夫(西宮)
菊地　三枝子(仙台)
遠藤　昭子(仙台)
善方　美智子(東京南)
湧川　勝彦(那覇)
常　弘(那覇)

祝福

横浜の宮口まさ子ちゃん(一九五六年一月二十四日誕生)は二月二十六日渡部兄弟の按手によって祝福された。

安芸兄弟 中島姉妹の婚約発表

二月二日の聖餐式に於て中島美江子姉妹と西宮支部の安芸兄弟の婚約の発表があり安芸兄弟より当支部に送られたメッセージが公開されました。御両人は尊敬と愛の強ききずなにて結ばれ近き将来を約束された。仲介者は柳田兄弟夫妻であります。支部一同は心より御二人の祝福をお祈りしています。

◎スケートパーティ（十五日の夕）スポーツセンターに於て楽しいスケーティングを行いました。当支部の最年長者の日坂さんの板に着いたスマートな滑りぶりには感心致しました。本当に老いも若きもそれぞれよく遊ぶ事が出来ました。

◎食べよう会、二十二日の夜、当支部としては初めての試みとしまして各自材料を持ちより、会費は一人百円としました。食事は扶助協会員により準備された、オデンとほおれんそうのおひたしで、食後楽しいゲームを行い良き消化剤となりました。当夜支部予算として三千九百円を得る事が出来ました。

◎扶助協会、今月の活動としまして教会のお客さん用の蒲団の皮ずくりを始めました。布を継合わせて作ります。又今月より集会の日時を変更し毎火曜日の夜七時より行います。

二十五日の扶助協会の後、突然東京西支部へ移動される岡本姉妹の送別会を扶助協会員と長老達で行いました。別れだから悲しくあるべき会なのにほがらかな岡本姉妹にふさわしい楽しい別れの会となりました。（名古屋，松浦　記）

教師（会員）梅津兄弟（求導者）ローロー長老、活動指導者（英語）ポータ長老、（ダンス）藤木兄弟（演説）高根姉妹、音楽指揮、吉田姉妹、

（川崎英三　記）

＊＊＊　＊＊＊　＊＊＊

新組織下の横浜支部

一九五八年を迎え、もう一月も過ぎ、寒いうちにも何やら春めいた気配に、ふと気付く。

新しく支部長に鈴木正三兄弟をそして新しい組織がつくられ、本当に今年こそは私たちにとって大いなる年であります。一月四日には七名の会員が誕生、これで百二名の兄弟姉妹を持つ支部に発展した。五日には倉沢一兄弟と宮坂徳久兄弟がアロン神権の執事に聖任された。一人一人が、自分の役割に非常な責任を自負し、張切っています。

年が変り、新しいテキストでレッスンを始めると、それぞれの先生レッスンの内容が変り、実にフレッシュな滑り出しである。五日の今年最初の証詞会で、心からの証詞をした後は、たゞたゞ私たちの神に感謝し、ひとえに神を讃える気持で皆一杯であったと思う。

今年は確かに支部にとって、一つの試練の年となろう。教会の建物の改修工事の計画も着々と進み日本人の支部長を迎え、今迄の兄弟姉妹たちの結晶をもっと立派に、大きく育てなければならないからです。

一月末になって急にスミス長老が、九州、福岡へ転任になった。皆で横浜駅まで御見送り申し上げたが淋しいとは云え、聖なる伝道のため心から前途の御無事と御健康を御祈り申し上げています。後任には新しくグリーフイン長老が見えられました。同じモルモンの兄弟は何処でも何時でも親しい。こんな様は他では一寸見られまい。にこっと笑って握手をすれば、もうこれで私たちは心の兄弟姉妹で

す。不可思議です。

一月中には特に変ったことはなかったが、これから山程あるでしょう。今年はそんな気がします。各支部の皆様も御便りを下さい。支部間の便りがほしいと思います。

（倉沢）

役員一部新任さる

二月二日次のように役員が新任されました。

日曜学校、第二副会長、高橋勝則
　新求道者級教師、川口弘裕
　旧求道者級教師、曾根　清
神櫛会教師、上野山研治郎
神櫛会書記、伊川　幸
MIA、第一副会長、阪本泰造
　新求道者級教師、阪本　弘
　旧求道者級教師、安斉洋治
書　　記　岩国　滋
演劇教師　阪本吉章

この日、日曜学校に於て北海道から来任の新地方部長、パック長老が紹介され、夜十時半には前地方部長フウバー長老を大阪駅に見送る。任期満了のお別れのため岡町、阿倍野、三宮各支部、会員求道者たち多数見送り名残りを惜む。

十三日、「MIAで　逢いましょう」の会　あり、高橋勝則、坂本泰造、両兄弟のギターとクラリネットの演奏、其他多くの番組にて楽しく更けて行く、

小樽へ行かれたダルトン長老の後任としてワシントン州からナントー長老新任、パック長老の同僚となられる。

十五日午後七時より扶助協会主催にて「民謡と食事の会の夕べ」を開く、修繕資金集めの催しである、出席者四十五名。宇佐見達子様からソウラン節と大阪ハンジョー節の踊りを楽しく習う。

十六日、柳田章子姉妹はMIAの受附係りとして任命せられた。

（岡町・阪本幾代）

三ケ月を振返る

（ダンスパーティ）教会堂建築資金獲得の為十一月十六日、甲府の県民会館講堂にて午後七時から十時迄行われました。

（クリスマス）ルカ伝二章十～十一節をもってクリスマスの御挨拶をお送り致します、

「恐れるな見よ、すべての民に与えられたる大きな喜びを、あなた方に伝える、今日ダビデの町に、あなた方の為に救い主がお生れになった。この方こそ主なるキリストである」。

十二月二十三日午前九時から子供の為のクリスマスが行われました。そして二十五日午後七時から会員求道者友達と六十人程集い数々のゲーム、ダンス、贈物の交換と和やかな内に楽しく過しました。

（タレントショー）一月二十六日午後七時から教会で行われました。長老、兄弟、姉妹、求道者と共に楽しい二時間をそれぞれの才能を披露して楽しい和やかなひとときを過す事が出来ました。ウクレレ、日本舞踊、ハーモニカ、二重唱、フラダンス等盛沢山のプログラムも悉がなく終りました。中でも一番好評があったショウは長老達が和服を召して姉妹達と一緒におけさ踊をしたことでした。

（甲府・早川蘭子）

ロー長老を送る

二月二日夜七時半から宣教師宅に於てフアイヤーサイドを行いました。ロー長老のお話を聞き、又スライド観賞等、楽しく有意義な会でありました。翌三日ロー長老が室蘭に転任になる事となりましたので会員求道者等は夜六時半までに宣教師宅に集りささやかなお別れの会を開きました。扶助協会の有志の人々の手によるちらしずしをいただいた後、ゲームをしたりして和やかなひとときを過しながら別れをおしみました。

◎MIAでは特別プログラムの「MIAであいましょう」を作り、案内状を書いて送りました。その結果七日の夜は四重唱、ダンス、ゲーム等、多種のプログラムを行う事が出来、よい会とすることが出来ました。

◎建設資金のための食事会を、二十五日夜扶助協会有志の協力によって開きました。遠く、柳井支部からおいでになられた林兄弟をもこの会に迎える事の出来ました事はしあわせな事でございました。

（山形・草壁蘭子）

礼拝堂の増築を計画

毎日欠かさず行われる街頭伝道戸別訪問、家庭集会等宣教師の方々の活潑な伝道により昨年から求導者が急激に増加し、日曜学校、MIA等毎週の集会はホール満員の盛況、一方熱心な会員も数を増

し、昨年一年間に男子十名、女子十二名の新会員が誕生し、受浸者数は今迄の最高を記録しました。又神権会も年毎に充実し、現在大神権所有者二名、祭司五名、教師七名、執事三名でその殆んどが支部の中核として活潑な活動を続けて居ります。一方扶助協会に於ては、今春行うバザーのために販売する品々の作成に姉妹達こぞって張り切って居ります。

この様な支部の発展に伴い、設備の完備した新しい大きな教会堂の建設の必要性を痛感し目下その資金の獲得の為、予算委員会の企画に基き支部会員、求道者一同鋭意努力中でありますが支部長会では差当り、現在使用中のホールの増改築を計画、去る一月十九日、会員の支持を得て教会堂ホール増築をすることに決定、近日中に着工する運びとなり今後一層の発展を期すべく一同張り切って居ります。

「一、二月の主な行事」

◎新年かるた会（一月三日）

◎米人ヒラス姉妹誕生（十九日）

◎MIA〃タラントの夕〃（二十二）塩英雄兄弟の線西、山岸兄弟の手品、小々高姉妹の古典味豊かなお琴、金森姉妹のお兄様によるギター演奏、それに長老総出演の珍怪、痛快な寸劇等、ヴァライティに富んだオープンナイトであった。◎

◎すきやきパーティ（二月八日）建築資金獲得のため米駐留軍の方々の御協力をいたゞいて午後六時より開催、なごやかな集いを持った。建築資金獲得活動として仙台市商工会議所に於てダンスパーティ開催（十五日）

◎オースチン長老送別会（十六日）日本に於ける最初の伝道、又最後の伝道を仙台支部でなさったオースチン長老との尽きぬ名残りを惜しんで安息日の夜、多数の出席者と共にお別れの会を催した。なお二十日九時の夜行で離仙帰国の途に着かれた。

◎オースチン長老の後任、新後閑長老を北地方部長としてお迎えした。

（仙台支部）

西宮の支部大会

新地方部長パック長老及びアンダーソン長老をお迎えして、開催されました。

◎MIA大会（二月八日）出席者二十六名。

◎神権会大会（九日）

「教義と聖約三章三節をテーマとして、「末日に於ける神権回復の意義」（細田兄弟）、「神権者の任務」（筋田兄弟）、「神権者として、常に価値ある話をしましょう」（田口兄弟）のお話の後、「神権者によるランチ、テイーチングの完備は後に憂慮を残さない」と、パック長老はその活動の必要を説かれました。出席者九名。

◎一般大会、聖餐式、証会（九日）大会テーマの朗読と讃美歌一七六番〃車を押せよ〃に、さそい出される様に「神の業としての救の計画」（田村兄弟）、「神の業としての教会の組織と活動」

西宮支部大会

（日高姉妹）「神の業としての社会生活」（植村兄弟）と三人のお話をきき、引続いて開かれた証会に於ても、兄弟姉妹の燃え上る証により一同御霊に満された意義深い日でした。出席者三十一名。

◎組織の変更、新らしい会員の誕生と共に、ここにますます[illegible]布実して次のように補布しました。

（二月二日）

◎神権会

（教師）細田　泉（指揮者）杉原一綱

◎日曜学校

（第二副会長）安芸　宏（書記）沼野治郎（会員級教師）田村正夫（教師補助）植村茂夫（ピアノ伴奏者）瀬越博子（指揮者）杉原一綱

◎ＭＩＡ

（第二副会長）筋田俊三（書記）永井経子（新求道者級教師）筋田俊三（ダンス指導者）筋田俊三（スピーチ指導者）安芸　宏（音楽兼指揮者）石塚妙子（音楽兼ピアノ伴奏者）瀬越博子

◎ファイヤー　サイド

帰還宣教師である安芸兄弟及び永井姉妹をお迎えして開催しました。テーマは〃我々はすべて宣教師の使命を持っている〃で、色々な経験と失敗談など沢山出て来てとても楽しい時間でしたが召を受けるために、証をもっと強めねばならないことを痛感させられました。出席者九名（三月三日）

◎演説クラス設置、ＭＩＡの活動にいよいよ演説のクラスが設置されることになり、その第一日（三月四日）は〃雄弁の意義、構造、方式、言語〃そして次週のための宿題等でした。出席者七名。

表紙の説明

第六代大管長　ジョセフ・Ｆ・スミス

ジョセフ・Ｆ・スミス大管長は、一八三八年十一月十三日、ミズーリ州のファー、ウエストで生れた。彼の生れる数日前に父のハイラム・スミスと叔父の予言者、ジョセフ・スミス及び其他の者がミズーリ州の暴兵の為に反逆罪と言う偽れる告訴によって投獄され射殺を宣告されていた。ジョセフ・Ｆ・スミスはミズーリ州及びイリノイ州の迫害の中に幼少時代を過し一八四八年九月二十三日、その母と共にソルトレーク盆地に入ったのである。彼はわずか九才の少年であったがミズーリ河より牛車隊を駆って広野を渡ったのであった。

一八五二年に彼の母、マリヤ・フィルディング・スミスが死にその二年後、一八五四年五月二十七日に彼はわずか十五才でハワイ伝道に出た。彼はその地で忠実に活潑な伝道をなし、その後更に英国で伝道し一八六六年七月一日、ブリガム・ヤングによって使徒に聖任された。一八六七年の十月八日に彼はアマサ・Ｍ・ライマンの後をついで十二使徒会の一員に選ばれた。彼は一八八〇年十月からスノウ大管長の死に至る迄テーラー大管長とウッドラフ大管長との間の期間の例外を除いて大管長会員を務めた。

一九〇一年十月十七日、ソルトレーク神殿で行われた使徒の定例週間集会に於て大管長会が再組織された。先任使徒のジョセフ・Ｆ・スミスが教会の大管長に支持され、彼はジョン・Ｒ・ウインダー及びアントン・Ｈ・ランドを副管長として選んだ。ブリガム・ヤング・ジュニアが十二使徒会長に選ばれた。第一副管長のジョン・Ｒ・ウインダーは聖任された時ウイリヤム・Ｂ・プレストン管理監督の第二副監督であった。アントン・Ｈ・ランドは十二使徒会員であった。

副管長共に経験豊富で注意深くひかえ目でこの新しい召しによく適していた。一週間後（十月二十四日）ジョセフ・Ｆ・スミス大管長の長男、ハイラム・マック・スミスが召されて十二使徒会の空席を布たした。

一九〇五年十二月十八日月曜日、ジョセフ・Ｆ・スミス及び教会幹部を含む約二十五名の者が予言者ジョセフ・スミスの生れた農場の記念碑を奉献すべくソルトレーク市を出発してヴアーモントのシャロンに向った。この美しい記念碑は三十八呎半の高さを持つ磨かれた花こう岩の柱でその呎の数は予言者の生涯の年令を示しジュニアス・Ｆ・ウエルズ長老の指揮の下に建設された。一九〇五年十二月二十三日、予言者の誕生百年祭にこの碑は奉献され開幕された。スミス大管長は祈りを捧げた。この少し前に記念碑の立っているマック農場は教会によって買われ、予言者が生れた古い家の立っていた地点に家が建てられた。続いて教会はニューヨーク州マンチエスタ

ー町区内のスミスの農場及び神聖な森を購入した。

一九〇六年の夏、ジョセフ・Fスミス大管長とチャールス・W・ニブレイ管理監督はヨーロッパに行き各伝道部に若干の時を過した。これは教会の大管長がその職に在りながらヨーロッパの地を踏んだ最初であった。これは海外に於ける聖徒たちへの大いなる祝福であり彼等を勇気づけその信仰を固めさせた。

その旅行で起った事で記録するに価値ある事はロッテルダムに住む十一才の少年ジョン・ルーソフの著しい癒しであった。

少年は盲目であった。けれどもスミス大管長が来ると云うことを彼は聞いて母親に言った。「若し貴方が私を伴って集会に行くなら彼（スミス大管長）は私の眼を見るでしょう。そして私はその眼が癒されることを信じます」と、彼は母親に伴われて行かれる事になった。集会が終ってからスミス大管長は一人一人に握手をし彼等とも握手をした。母親がその息子を差出すとスミス大管長は彼の眼のほうたいを持上げ彼を祝福した。少年は家に帰った時言った。

「お母さん、私の眼はよくなりました。私はもう少しの痛さも感じません。私は今見えます。遠く迄も見えます」と。

一九一八年の春、スミス大管長は健康が衰え始めその晩夏と秋の間に於て事務の大部分は彼の私室で行い、事務室に出るのは極めて稀れであった。彼は、午後に少しの時間ドライヴする習慣であり、それが非常に為になっていた。一九一八年の十月大会の時、彼は非常に良くなって大会の始めから終り迄、管理した。

彼の開会の挨拶は全タバナクルに響いた。けれども彼の通常の元気さ（肉体的勢力）を以てなされたのではなかった。大会が終ってから彼は再び殆んどの時間を彼の部屋に閉じこもった。一九一八年十月三日、大会の前日に、彼は著しい顕示を受けその中で死者の救いと、救主が十字架にかかった後、霊界を訪ねた事に就て、更に大きな光が顕れた。彼は大会に於てこの示現に就てそれとなく参照したが、十二月までは公表されず、十月三十一日に先づ最初に大管長会の二人の副管長及び使徒たち及び大祝福師に提示され全員一致で受入れられた。

一九一八年十一月十七日の日曜日に彼は肋膜炎におそわれ益々悪化して肋膜肺炎となり、十一月十九日火曜日の朝、逝去した。流感が全面的にはびこっていたので公式の葬儀は行われなかった。棺が通過する時、数千の人が街道に立ち並び式は墓の傍で冷い青空の下で行われた。

ヒーバー・ジェー・グラント大管長と、チャールス・W・ニブレイ監督の簡単な話があった。アントン・H・ランド副管長が墓を捧献した。

詩藻

「短歌」

東京北　高木とみごろう

数え得ぬそれほど長くこの日頃
　空を見ずして暮しけるかな

久しぶりに空を見たるが哀しかりき
　空の彼方はふるさとなるを

空見れば幼き年のふるさとの
　わが破れ家の窓を思うかな

古きノートから

「俳句」

東京南　渡辺八重子

昭和十八年作

ひし取の　舟かたむけて　昼げかな

永病の　母を頼りに　冬仕度

昭和十九年作

さびれゆく　山の湯宿や　返り花

一枚の　冬菜畑あり　みねみね白し

髪洗い　干菜かけある　日あたりに

雪どけの　流れは早し　猫柳

冬ばらに　御歌静かに　朗唱す

雪なだれ　ふるさと人は　耳さとく

ひとり子の　ひとり遊びや　地虫出づ

芽柳の　ほぐるる窓に　事務づかれ

さえずりの　さなかの駅に　汽車とまり

盲目なる　妹さえずりを　ふりあおぎ

加治川は　我がふるさとよ　花曇り

久々に　訪ひし母校や　藤の花

「牡丹」より

文通いたしましょう

日本の皆様へ

前略

皆様方には如何御過しですか。私共は元気です。当地に於ける神殿の仕事は非常によく進められています。皆様も御存知のように献堂式は四月の二十日です。神殿の内部も外観と同じ様に大変きれいです。夜になると時々神殿が照明によって美しく照らし出されます。すべての工事が計画通りに早く進行しなかったので今は朝の五時に仕事が始められています。大学は来る月曜日に始ります。生徒は大学を悦ぶに違いありません。学校には七十五フィートの水泳プールと大きなオルガンと他のアトラクションがあります。私がこの手紙をしたためる主な理由は日本の教会員と是非文通したいと思うからであります。私は男の会員で二十四才位の方と文通したいと思います。私は二十三才で昨年の十一月で教会員生活が一年になりました。私は活潑な会員で、将来最近迄いた合衆国に帰り永住するつもりです。私の職業は塗装業です。そして私は大ていの事に興味をもっています。ユタ州にいた間に私はフワンク姉妹が話した教会に行っていました。彼女は最近、日本で伝道された方です。

私もメンバーである私達の合唱団は最近オークランドへ行って現在ニュージランドを旅行中の英国皇太后の市民歓迎会で歌いました。お便りをお待ち致して居ります。

敬具

一九五八年二月八日　　ピーター・ハッチ

PETER HATCH
L.D.S. college Frankton, New Zealand

◎　この他にも左記の方々が文通を希望して居ります。

沖縄の姉妹

沖縄直和志市大道区三班　石橋洋子

JEANNE WILLARDSON
3266 Tabot Street San Diego 6, Calif
U.S.A

若き末日聖徒の為の

モルモン経物語

エマ・マー・ピーターソン著＊渡部正雄訳

第十九章　イノスの祈り

（イノス書）

レーマン人は時がたつにつれて悪くなり更にニーファイ人に対して戦いを企みました。ニーファイ人は彼等の間に宣教師を送って彼等を改宗して平和をもたらせようとしました。けれどもレーマン人は兇猛で血に飢えて居りました。

彼等は森の中で殺した四足獣で生活し彼等自身の家を建てず天幕に住んで獲物を追うて一地方から一地方へとてんてんと移って行きました。

彼等は、汚れた習性となりリーハイの時代と同様に衣服も着けずただ短い腰巻きをしていました。彼等は今日のインデアン人がしているように、頭をそり野ばん人のような生活をしていました。

彼等は多くの弓矢や戦闘で使う小さなおのを造りました。

彼等は時には仲間同志で戦いましたが、おもなる望みはニーファイ人と戦うことでした。

ニーファイ人は家を建て畑を耕しいろいろな穀類やその他の食物を植え育てました。彼等はまた牛羊、山羊及び多くの馬を持って居りました。

この時代にニーファイ人の間に予言者が来て悔改めを説きました。それは彼等もまた悪い民となって来たからであります。その予言者の一人にヤコブの子のイノスが居りました。イノスは、ニーファイ人が罪の生活を続けるなら主なる神さまは彼等を滅ぼすであろうことを知って居りました。

或朝彼はたゞ一人森の中に行きました。彼は主なる神さまに近づいて彼自身の罪の赦しを願い度いと言う大きな希望を持っていました。彼は森の中にひざまづいて祈り始めました。彼は立上る前に返事をいたゞき度いと感じました。

彼は朝から晩まで祈り夜中になっても祈り続けました。そこで彼は神様が彼に語る声を聞きました。「イノスよ、お前の罪は赦された。しかしてお前は祝福されるであろう」と。

イノスは、此の伝言に大変喜びました。けれども彼は主なる神さまに対しもっと頼まねばなりませんでした。彼は彼自身の罪を赦された事を喜びましたが彼はまたその民の罪の故に困って居りました。それからまた彼は記録されている金版の安全な保存に就て憂えました。それはレーマン人が曾て彼等はニーファイ人を殺すだけでなくその記録をも打こわすであろうと言ったからであります。彼はそのように長くまた真剣にこの祝福を祈りました。即ち主なる神さまは再び彼に語り彼の願いは聞き届けられるであろうと云いました。そしてその記録も保存されるでありましょう。主なる神様はまたイノスに彼の先祖だちも同様の祝福を祈りましたと告げました。

第二十章　地上に住む他の者

（オムナイ書）

ニーファイ人の王たちの一人にモーサヤと云う人が居りました。彼の時代には主なる神さまが彼にすべての義人を集めて他の地方に移動せよと告げられる程、民は悪化していました。

神様を信ずる者たちは、モーサヤに従って荒野に行きました。この悪人の内より義人を召給うたことは主なる神さまがニーファイ人をアメリカに連れて来てから二度目の事でした。前に一度ニーファイがまだ生きている頃主なる神さまは彼にレーマンとレミュエルが

民を悪に導いている彼の故郷を去って他の地に行くように告げました。

モーサヤが彼の民を導き去った時、彼等の誰もが彼等が何処に行きつつあるかを知りませんでした。けれども主なる神さまの導きのもとにモーサヤは彼等を連れて荒野の奥へ奥へと進んで行きました。

或日、彼等は未だ曾てその名を聞いた事もないような町に来て大変驚きました。彼等は其処に着いた時、その民が大変友好的であるのを知りました。けれども彼等の言葉はニーフアイ人には全然何を語っているのかわからない程かわって居りました。

モーサヤは、大変賢い人で大いなる指導者でありました。

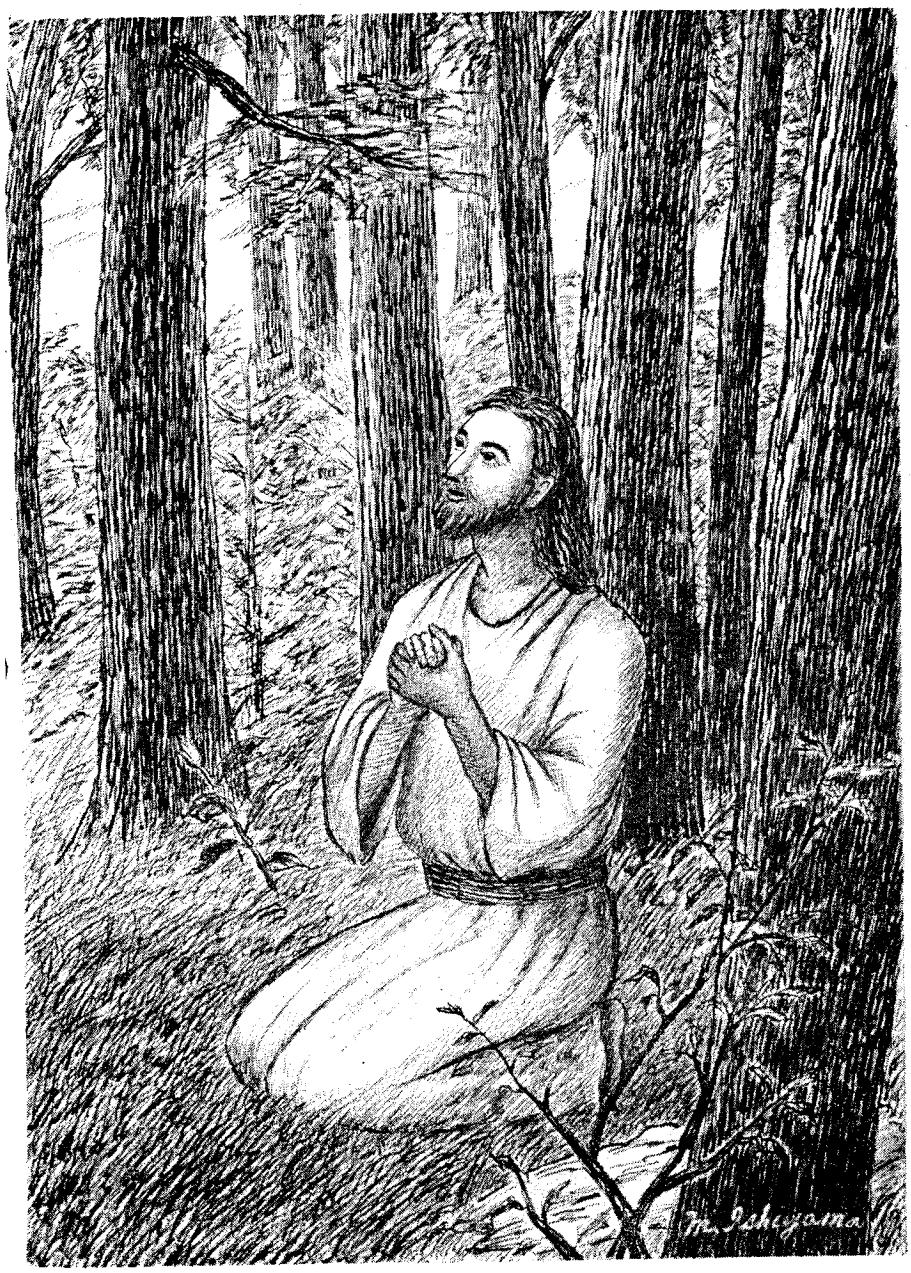
この変った人々に親切にして彼は忽ちにして彼等の尊敬を得、彼等は彼が彼等の王となることを希望しました。彼等は進んでニーフアイ人と結合して一つの民となるように望みました。

この事はモーサヤを喜ばせました。先づ最初に彼は此の新しい町の民に、ニーフアイ人が語るところの言葉を教えました。彼等がお互に言葉が通じ理解出来るようになった時、彼等はモーサヤに変った且つ大変面白い物語りを告げました。

彼等は彼等もまたエルサレムより来たと言いました。彼等は、バビロニヤ人がユダヤ人を捕虜にした時ユダヤを治めていた悪王、ゼデキヤの時代にエルサレムを去りました。

彼等はモーサヤに彼等の指導者はゼラヘムラと云う名であったと告げました。主なる神さまは彼等をアメリカに導きそこで彼等は町を建設しその町に指導者の名前をつけました。

彼等の言葉がニーフアイ人と異っているのは彼等が如何なるユダヤ人の記録をも持って来なかったからであります。彼等は既にアメリカに二百年以上住みました。時がたつにつれ彼等は新しい環境に応じて新しい言葉をつくりこのようにして言葉全部を変えてしまったのです。ニーフアイ人は記録を持っていましたので彼等の先祖がどう云う言葉を語ったか思出させることを助けましたけれども彼等の新しい友人達は、そのような導



きを持たなかったのであります。

ゼラヘムラの民はニーファイ人が黄銅版を持っていると聞いた時大変喜びました。今や彼等は聖文を読みまた彼等の先祖に就て学ぶことも出来ました。

或日彼等は、何か書き記された大きな石をモーサヤ王の処に持って来ました。主なる神さまに霊感されて、王は記述を訳しました。それはずっと昔にバベルの塔からアメリカに来たところのジェレド人に就て述べてありました。これ等の民は最後にコリアントメルと云う人ただ一人を残して皆死んでしまいました。このコリアントメルは北の細い土地から南の方にさまよい遂にゼラヘムラの町にたどりついた者であります。そこで彼は九ケ月住みその後死にました。

主なる神さまが予言者イテルを通じてコリアントメルに彼は生き残ってすべての彼の民が滅ぼされ他の民が彼等に代ってアメリカに住むのを見るであろうと語った事が記憶されるでありましょう。

彼がゼラヘムラに来たのは正に此の予言が成就したのであります。

才二十一章

義の王ベンジャミン

モーサヤが死んで彼の義しい息子ベンジャミンがゼラヘムラの王になりました。

彼は主なる神さまを愛し生涯主なる神さまに仕えました。けれども彼が町を治めている間にレーマン人が彼の民を攻撃致しました。

ベンジャミン王は聖なる記録とレーバンのつるぎの保持者でありました。レーマン人達がその軍隊を派遣してゼラヘムラを攻撃した時ベンジャミン王は彼の軍人を引率してこれにあたりました。彼はニーファイが王であった時に用いたと同じようにレーバンのつるぎを使用しました。

ベンジャミンは大変義しい人で彼が主なる神さまにその民を助け給えと祈る時は主なる神さまは彼を祝福しまた彼の軍隊を祝福して彼等を強くする程でした。

此の主なる神さまの援助によりニーファイ人はレーマン人を数千人も殺しその他の者を全部残らず彼等の国から追出してしまった程でした。

此の大いなる戦争が終ってゼラヘムラが平和になった時、多くの人が傲慢になって主なる神さまに仕えなくなりました。また他の者は非常に悪を愛してゼラヘムラを去りレーマン人の処へ行って共に住みました。

そこで民の間に偽予言者が起り彼等の或者は救主イエスであると主張致しました。ベンジャミンはこれ等の人を罰しました。けれどもまた他の偽予言者や悪い教師達が民をあやまらせました。真の予言者の助けをうけながらベンジャミン及び義人たちは民に説教し彼等に悔改めを叫びました。多くの者は心が頑固になってしまって聞こうともせずまた或者はレーマン人と一緒になってしまいました。

ベンジャミンと予言者達は強くその民に語り主なる神さまの助けによって彼等を悔改めさせたので漸く国内に平和が訪れました。ベンジャミンは義しい王で当時、人々より「聖い人」と呼ばれて居りました。そこにはまた他の「聖い人々」が住んで居り彼等は大きな力を以てその民に福音を説いていましたがベンジャミンは全心全力を以て彼等を助けました。ベンジャミンと彼を助ける予言者たちの力は此の王の治世の間よくその民の紛争や戦いを止める事が出来る程偉大でありました。

編集言

この月は復活祭の月、伝道部長メッセージを熟読して意義ある復活祭を送りたいものです。

三月号から面目を改新した「聖徒の道」は皆様の心からの御協力をお願したい。

〆切日も月末日変更しましたが、今後はその宛先を本部内の「聖徒の道編集部」として頂きたい。

「聖徒の道」を一部でも多くの人に購読していただくために、各支部に「聖徒の道係」をきめて下さい。そして編集部との密接な連絡を図って下さい。係りの方が決定したらお知らせ願います。

購読者増強方法をお知らせ下さい。支部の活動にマッチして「聖徒の道」を多く頒布するようお考を願いたい。

聖徒の道　才二巻才四号
昭和三十三年四月一日発行
定価一ケ年三百円、一部三十円
発行人　ポール・C・アンドラス
編集人
発行所　港区麻布広尾町十四
末日聖徒イエスキリスト教会
北部極東伝道部

聖徒の道
一九五八年三月十八日
第三種郵便認可第二卷第四号
一九五八年四月一日発行
発行人
編集人
ポール・C・アンドラス
発行所
末日聖徒イエス・キリスト教会
北部伝道部
東京都港区麻布広尾町十四

末日聖徒イエス・キリスト教会信仰箇条

（1956年8月校訂、承認）

第 1 条　われらは、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと聖霊とを信ず。

第 2 条　われらは、人は皆各々其身にてなしたる罪に対して罰を受け、アダムの咎に対して罰を受けざることを信ず。

第 3 条　われらは、キリストの贖罪により、すべての人類は、福音のおきてと儀式とを守ることによりて救われ得ると信ず。

第 4 条　われらは、福音の第一原則と儀式とは
第1、主イエス・キリストを信ずる信仰
第2、悔改め
第3、罪の赦しを受くるために水に沈めらるるバプテスマ
第4、聖霊の賜を授かるための按手礼
なることを信ず。

第 5 条　われらは、福音を宣べ、且つその儀式を執り行うためには、啓示と、権威ある者の按手により、神によりて其任に召されねばならぬことを信ず。

第 6 条　われらは、教会には、初期の教会に在りたると同一の組織、すなわち使徒、予言者、監督、教師、祝福師等のあるべきことを信ず。

第 7 条　われらは、異言を語る力、予言する力、啓示、示現を受くる力、病を医す力、異言を釈く力等の賜あることを信ず。

第 8 条　われらは、正確に飜訳されたる限り、聖書は神の御言葉なりと信ず。またモルモン経（英文）も神の御言葉なりと信ず。

第 9 条　われらは、すべて神のこれまでに啓示したまいしこと、すべて今啓示したもうことを信じ、なお今より後、神の王国について多くの偉大にして重要なることを啓示したもうことを信ず。

第 10 条　われらは、イスラエル人は、文字通りに四方より集合し、その十支族の元に立ちかえることを信ず。われらは、シオンはこの（アメリカ）大陸に建てられ、キリストは御自ら地上に王となりて、治めたまい、地球は元にあらたまりて楽園の栄えを受くることを信ず。

第 11 条　われらは、自らの良心に従い、全能なる神を礼拝する特権ありと主張す。また、われらは、すべての人々にこの特権を許し、何所なりとも、如何様なりとも、または何なりともこれを礼拝することを妨げず。

第 12 条　われらは、王、大統領、統治者、長官に従うべきを信じ、また法律を敬い、守り、支うべきを信ず。

第 13 条　われらは、正直、真実、貞潔、慈善、高徳なるべきこと、およびすべての人に善を行うべきを信ず。まことにパウロの訓戒に従うというを得べく、われらはすべてのことを信じ、すべてのことを望む。すでに多くのことを堪え忍びたれば、あらゆることを堪え忍び得んことを望む。もし何にても、徳高きこと、好ましきこと、よき聞えあること、あるいは褒むべきことあらば、われらはこれらをたずねもとむるものなり。

ジョセフ・スミス